

第二十號書式 其一

國民兵異動届

郡町(村)

族職業

姓名

年月日生

右ハ郡町(村)某幾男(兄弟)伯父(叔父)(甥)(附籍)ニ候處年月日私養嗣子ニ貫受候間此段及御届候也

郡町(村)族職業

戶主姓名印

年月日生

郡町(村)戶長

姓名

前書之通相違無之候也

戶長

姓名印

年月日

此書式ハ一例ヲ示スモノニ付戶主讓受又ハ退隱或ハ本人及戶主ノ改名等總テ身上ニ異動ヲ生スル所ハ此書式其二其三ニ準據スヘシ

兵事 徵兵

第二十號書式 其二

國民兵異動屆

郡町(村)

族職業

姓名

年月日生

右、郡町(村)某養嗣子(相續人)ニ候處年月日該家離縁私
幾男(兄)弟(伯父)叔父(甥)附籍ニ復シ候間此段及御届候也

郡町(村)族職業

戶主 姓名 名印

年月日生

郡町(村)戶長

姓名 殿

前書之通相違無之候也

戶長

姓名 名印

年月日

國民兵異動屆

郡町(村)

族職業

姓名

年月日生

右ハ私養嗣子(相續人)ニ候處年月日何府(縣)郡(區)町(村)某方ハ離縁或ハ私幾男(兄)弟(伯父)叔父(甥)附籍ニ候處何府(縣)郡(區)町(村)某方ハ養嗣子ニ差遣候間此段及御届候也

郡町(村)族職業

戶主 姓名 名印

年月日生

郡町(村)戶長

姓名 殿

前書之通和違無之候也

戶長

姓名 名印

年月日

第廿壹號書式 國民兵名簿

用紙美濃紙

姓名	住所	誕生	職業	摘要	姓名	住所	誕生	職業	摘要
何男(父) 何女(母) 何男(兄) 何女(弟) 何男(子) 何女(孫) 何男(孫) 何女(孫) 何男(曾孫) 何女(曾孫)	某(村)	某年某月某日	士族						
同	同	同	同						
同	同	同	同						

國民兵名簿

姓名	住所	誕生	職業	摘要	姓名	住所	誕生	職業	摘要

兵事 徵兵

第廿二號書式

情願書

郡町(村)番屋敷住

某長男

姓 名

年 月 日 生

同二男

姓 名

年 月 日 生

右之者共同時徵集相當ニテ兩人トモ検査合格相成候
ニ付テハ弟某ヲ御徵集相成兄某御猶豫相成度此段奉
願候也

郡町(村)番屋敷住

戸主 姓 名 印

年 月 日

滋賀縣 徵兵署

御中

前書之通相違無之候也

戸長

姓 名 印

年 月 日

第廿三號書式 其一

兄弟同時徵集者寄留地檢査願

何府(縣)何國何郡(區)何町(村)番地住

族職業某幾男或ハ何々

目今滋賀縣近江國何郡町(村)番屋敷

某方寄留

姓 名

年 月 日 生

私儀何年徵兵ニテ兄弟某ト同時徵集ニ應スヘキ者ニ
候處目今當地ニ寄留罷在候ニ付御縣御檢査所ニ於テ
御檢査相受度此段奉願也

何府(縣)何國何郡(區)何町(村)番地住

某幾男或ハ何々

滋賀縣近江國何郡何町(村)番屋敷寄留

某年 月 日 生 某 姓 名 印

滋賀縣近江國何郡何町(村)番屋敷住

戶主

保証人 姓 名 印

何郡何町(村)戶長

姓 名 殿

第廿三號書式 其二

兄弟同時徵集者寄留地檢査届

滋賀縣近江國何郡何町(村)番屋敷住

族職業某幾男(或ハ何々)

姓 名

年 月 日 生

私儀何年徵兵ニテ(兄)弟某ト同時徵集ニ應スヘキ者ニ
候處現今何府(縣)何國何郡(區)何町(村)番地某方ニ寄留罷
在候ニ付寄留地ニ於テ檢査相受度旨本日出席致候間
此段及御届候也

滋賀縣近江國何郡何町(村)番屋敷住

某幾男(或ハ何々)

何府(縣)何國何郡(區)何町(村)番地

某方寄留

姓 名 印

年 月 日

何郡何町(村)戶長

姓 名 殿

第二十四號書式

此願書ハ三通差出スヘシ

寄留地應徵願

滋賀縣近江國何郡何町(村)番屋敷住

族職業某幾男(或ハ何々)

目今何府(縣)何國何郡(區)何町(村)番地

某方寄留

姓 名

年 月 日 生

右ハ來何年徵兵相當之處都合ニ據リ寄留地ニ於テ徵
集ニ應シ度此段奉願候也

二十年三月十
七日滋賀縣令
第九十一號ヲ
以テ(來何年)
ヲ(本年)ト改
ム其縣令ハ後
ニ出

滋賀縣近江國何郡何町(村)番屋敷住

族職業

戶主 姓 名 印

何府(縣)何國何郡(區)何町(村)番地住

族職業戶主

保証人 姓 名 印

滋賀縣知事姓名殿

前書之通相違無之候也

戶長

姓 名 印

年 月 日

第廿五號書式 其一 徵集猶豫名簿

用紙美濃紙

姓 名	町村番屋敷	誕 生	職 業	徵兵令第十七條ニ當ル事故	摘事 要故	姓 名	町村番屋敷	誕 生	職 業	徵兵令第十七條ニ當ル事故	摘事 要故
某何男(養子(兄(弟) (伯父(叔父(甥) 戸主ト記スベシ)	曲(村)第何番屋敷	年 月 日	平民			本八戸主ナレバ 戸主ト記スベシ	同	同	同		
祖父六十五歳	承 祖	孫	農			父六十歳何ヶ月	嗣	族	子		
某何男(養子(兄(弟) (伯父(叔父(甥) 戸主ト記スベシ)	郡町(村)第何番屋敷	年 月 日	商人								
戸主	族	主									

徵集猶豫名簿

姓 名	町村番屋敷	誕 生	職 業	徵兵令第十七條ニ當ル事故	摘事 要故	姓 名	町村番屋敷	誕 生	職 業	徵兵令第十七條ニ當ル事故	摘事 要故

徵集猶豫名簿ハ總テ徵兵令第十七條乃至第十九條及第二十一條ニ當ルモノ、部類并ニ條目ヲ分チ登記ス連名ノ順序ハ甲村ノ者ヲ書シ終ル後乙村ニ及ホスヘシ

兵事 徵兵

第廿五號書式 其二 徵集猶豫名簿 用紙美濃紙

姓 名	町 村 番 屋 敷	族 職	生 業	摘 事
某何男(養子)兄(弟) (伯父)叔父(甥) 本八月主ナレハ 月主ト記スベシ	町(村)第何番屋敷	何	農日	某何男(養子)兄(弟) (伯父)叔父(甥) 本八月主ナレハ 月主ト記スベシ
陸(海)軍某校(團)生徒	年月日入校(團)	平民	農日	陸(海)軍某校(團)生徒
官立某中學校ニ於テ何ク年 課程ヲ卒業ル生徒		同	同	官立某中學校ニ於テ何ク年 課程ヲ卒業ル生徒

徵集猶豫名簿

姓 名	町 村 番 屋 敷	族 職	生 業	摘 事
某何男(養子)兄(弟) (伯父)叔父(甥) 本八月主ナレハ 月主ト記スベシ	町(村)第何番屋敷	何	農日	某何男(養子)兄(弟) (伯父)叔父(甥) 本八月主ナレハ 月主ト記スベシ
陸(海)軍某校(團)生徒	年月日入校(團)	平民	農日	陸(海)軍某校(團)生徒
官立某中學校ニ於テ何ク年 課程ヲ卒業ル生徒		同	同	官立某中學校ニ於テ何ク年 課程ヲ卒業ル生徒

兵事 徵兵

第二十六號書式 徵集猶像名簿

用紙美濃紙

姓 名	町 村 番 屋 敷	誕 生	職 業	摘 事 要 故
某何男(養子)(兄)(弟) (伯父)(叔父)(甥) 戸主ト記スベシ	町(村)第何番屋敷	年 月 日	平民	
某何男(養子)(兄)(弟) (伯父)(叔父)(甥) 本人戸主ナレバ 戸主ト記スベシ	町(村)第何番屋敷	年 月 日	平民	
父六十歳何ヶ月 嗣			平民	
年 月 日 拜命 官(公)立某學校教員			平民	
年 月 日 入校(團) 陸(海)軍某校(團)生徒			平民	

徵集猶像名簿

姓 名	町 村 番 屋 敷	誕 生	職 業	摘 事 要 故
某何男(養子)(兄)(弟) (伯父)(叔父)(甥) 本人戸主ナレバ 戸主ト記スベシ	町(村)第何番屋敷	年 月 日	平民	
官(府)縣立某學校ニ於テ 何少年課程ヲ卒業シテ 生徒			平民	
某何男(養子)(兄)(弟) (伯父)(叔父)(甥) 本人戸主ナレバ 戸主ト記スベシ	町(村)第何番屋敷	年 月 日	平民	
年 月 日 決裁濟 某省奉職			平民	

兵事

徵兵

三百五十三

三百五十二

○明治二十年三月十七日滋賀縣令第九拾壹號(公報三月十九日)
明治十九年^七月縣令甲第一號本縣徵兵事務取扱手續中左ノ通改正刪
除ス

○
第十條中「九月一日ヨリ同月十五日迄」トアルヲ「四月一日ヨリ同月
十五日迄」ト改ム

同條但書中「九月十六日以後翌年四月十日以前」トアルヲ「四月十六
日以後十一月二十日以前」ト改ム

第十三條中「四月十一日」トアルヲ「十一月二十一日」ニ其年九月十五
日「トアルヲ」翌年四月十五日」ニ其年九月一日ヨリ全月十五日迄
「トアルヲ」翌年四月一日ヨリ全月十五日迄」ト改ム

同條但書中「九月十六日以後翌年四月十日以前」トアルヲ「四月十六
日以後十一月二十日以前」ト改ム

第十四條中「九月一日ヨリ同月十五日迄」トアルヲ「四月一日ヨリ同
月十五日迄」ト改ム

同條但書中「九月十六日以後翌年四月十日以前」トアルヲ「四月十六
日以後十一月二十日以前」ト改ム

第十八條中「九月一日ヨリ同月十五日迄」トアルヲ「四月一日ヨリ同
月十五日迄」ニ「九月十六日以後翌年四月十日以前」トアルヲ「四月
十六日以後十一月二十日以前」ト改ム

同條但書中「四月十一日」トアルヲ「十一月二十一日」ト改ム
第十九條中「九月一日ヨリ同月十五日迄」トアルヲ「四月一日ヨリ同
月十五日迄」ト改ム

同條但書中「九月十六日以後翌年四月十日以前」トアルヲ「四月十六
日以後十一月二十日以前」ト改ム

第二十三條中「ノ翌年四月十一日」トアルヲ「ヲ爲ス年ノ十一月二十一

日」ト改ム

第二十九條中「八月」トアルヲ「三月」ト改ム

第四十九條中「八月」トアルヲ「三月」ト改ム

第五十七條但書中「九月十六日以後翌年四月十日以前」トアルヲ「四月十六日以後十一月二十日以前」ト改ム

第六十一條中「四月十一日」トアルヲ「十一月二十一日」ニ「其年九月十五日」トアルヲ「翌年四月十五日」ト改ム

第六十三條中「異動徵集名簿」トアルヲ「壯丁異動名簿異動徵集之部」ト改ム

又ハ壯丁異動名簿異動先入兵之部ニ「其事由并」トアルヲ「其事由或ハ」ト改ム

第七十五條中「四月十日」トアルヲ「十一月二十日」ニ「其年九月一日」トアルヲ「翌年四月一日」ト改ム

第八十六條但書中「其年九月一日ヨリ同月十五日迄」トアルヲ「翌年四月一日ヨリ同月十五日迄」ニ「九月十六日」トアルヲ「四月十六日」ト改ム

改ム

第二百二條中「其年九月一日」トアルヲ「翌年四月一日」ト改ム

第二百二十六條但書中「三十三歳」トアルヲ「三十二歳」ニ「四月十九日」ヲ「十一月三十日」ト改ム

第三百三十條但書中「其年九月」トアルヲ「翌年四月」ト改ム

第三百三十五條刪除

第四百四十四條及ヒ第四百四十五條刪除

第四百四十六條中「十月二十五日」トアルヲ「六月五日」ト改ム

第四百五十一條中「十月二十五日」トアルヲ「六月五日」ト改ム

第壹號書式其三中「明年」トアルヲ「本年」ト改ム

同號書式其四其五其六其七及其十中「來何年一月」トアルヲ「本年十月」ト改ム

第十七號書式中「四月二十日」トアルヲ「十二月一日」ト改ム

第十九號書式其一其二刪除

第二十四號書式中「來何年」トアルヲ「本年」ト改ム

○明治二十年四月二十八日滋賀縣令第百貳拾五號(公報四月三十日) 明治十九年^七縣令甲第壹號本縣徵兵事務取扱手續中左之通第百三十五條ヲ追加シ第百三十六條ヲ改正ス

十九年縣令甲
第一號ハ後ニ
出
歸休概則ハ第
六十五條ニ出
後備軍司令部
條例ハ第五十
一條ニ出

第百三十五條 歸休兵及豫備後備兵ニシテ歸休概則若クハ後備軍

司令部條例等ニ據リ差出スヘキ身上異動ノ屆書ハ其異動ノ日ヨ

リ三日以内ニ戸長ニ差出シ戸長ハ屆書ニ依リ充員名簿及後備軍

召集名簿并ニ召集令狀等ニ訂正ヲ加ヘ屆書ニ與書証印ノ上之ヲ

即日郡長ニ差出シ郡長ハ屆書ニ依リ充員名簿及後備軍召集名簿

等ニ訂正ヲ加ヘ屆書欄外ニ官印ヲ捺捺シ即日之ヲ郡駐在官ニ送

致スヘシ

但郡長ハ本條屆書ヲ送致シタルトキハ其事由ヲ詳記シ即日縣

廳ニ報告スヘシ

第百三十六條 歸休兵及豫備後備兵ニシテ歸休概則若クハ後備軍

司令部條例等ニ依リ差出スヘキ願書ハ戸長ニ差出シ戸長ハ之ニ

與書証印ノ上即日郡長ニ差出シ郡長ハ之ヲ調査ノ上本書欄外ニ

官印ヲ捺捺シ即日郡駐在官ニ送致スヘシ

但郡長ハ本條願書ハ指令濟郡駐在官ヨリ回送アルトキハ充員

名簿及後備軍召集名簿等ニ訂正ヲ加ヘ即日其事由ヲ詳記シ縣

廳ニ報告シ願書ハ戸長ニ送付シ戸長ハ之ニ依リ充員名簿及後

備軍召集名簿并召集令狀等ニ訂正ヲ加ヘ即日本人ニ交付スヘ

○明治十七年十一月十三日陸軍省達甲第四拾六號達 沖繩札嶋根室
ノ三縣ヲ除ク

府縣

士官學校若シハ教導團生徒檢査合格者ニシテ未ダ入校入團ヲ命セ
サル以前ニ在テ徵兵檢査又ハ入營ニ際スルキハ尋常徵集者同様可
取扱此旨相達候事

但入營以前入校入團ヲ命スルモノハ其校團ヨリ府縣廳ニ照會シ
入營迄ニ入校入團ヲ命セサルモノハ其府縣廳ヨリ其旨ヲ近衛局
鎮臺士官學校若シハ教導團へ通牒シ追テ入校入團之儀其校團ヨ
リ近衛局鎮臺へ照會スヘキ儀ト心得可シ

〔考參〕明治二十年四月七日滋賀縣第二部兵事課照會^{戸長役}（公報四月九日）
兵第二〇號

徵兵事務條例第三十五條ニ依リ戸籍照較ノ際索引ニ便ナラシムル
爲メ照較ヲ受クヘキ戸籍面ニ見出シ紙ヲ貼付又ハ紙片ヲ狭ミ入レ
置ク等便宜取計相成度此段及照會候也

徵兵事務條例
ハ第十條ニ出

明治二十年四月七日

滋賀縣第二部兵事課

各戸長役場御中

〔考參〕明治二十年四月十五日滋賀縣訓令第三十八號公報四月十六日^{郡役}
所^{戸長}役場へ

徵兵令ニ據リ本年中徵集スヘキ徵兵ハ第二次徵兵ト名稱シ諸名簿
表紙明治二十年ノ下ニ第二次ト書シ人別表ハ左ノ通書載スヘシ

永式ニ非ズト
雖モ參看ノタ
メ編入ス
徵兵令ハ第九
條ニ出

ノ職務擔任方

本年勅令第五十四號ハ本編ニ入用ナキニ付登載セズ○徵兵事務條例ハ第十條ニ出

○明治十九年十月一日滋賀縣令乙第四十五號(公報十月六日)郡役所
本年勅令第五十四號地方官々制ニ據リ更ニ設置ノ課中別ニ兵事課
ヲ置カサル府縣ニ在テハ明治十七年第十八號布達徵兵事務條例中
兵事課長ノ職務ハ兵事ニ關スル事項擔任ノ課長ヲシテ履行セシム
ヘキ旨本年九月陸軍省訓令甲第壹號ヲ以テ訓示セラレタリ此旨心得
ヘシ

第三拾三條

徵兵壯丁名簿其他書類送達方并ニ進達期限ノ事

徵兵事務條例ハ第十條ニ出

○明治十七年九月九日滋賀縣丙第八拾貳號達郡役所
徵兵事務條例第二拾三條及ヒ第三拾條ニ據リ郡長ハ壯丁名簿及ヒ
壯丁異動名簿ヲ製シ各自屆書人別表其他書類ト共ニ郡駐在官ニ送
付可致義ニ候處當分ノ内壯丁名簿壯丁異動名簿ノミ駐在官ニ送致シ該

徵兵事務條例ハ第十條ニ出

官ニ於テハ其名簿ノ卷末ニ署名押印シ郡長ニ返付スヘキ旨其筋ヨ
リ達有之候條此旨相達候事(其筋ヨリ達ハ明治十七年九月六日陸軍省達甲第三十九號達ナリ)
○明治二十年四月十一日滋賀縣達第百九十九號公報四月十三日郡役所

徵兵事務條例第二十五條ニ據リ郡長ハ壯丁名簿及ヒ壯丁異動名簿
其他諸書類ヲ六月五日迄ニ縣廳ヘ可差出儀ニ候處事務整理ノ都合
ニ依リ其筋ヘ稟議ノ上當分之内五月二十五日迄ニ繰上ケ候條同條
例第二十三條ノ手續ヲ要セス右期限迄ニ直チニ縣廳ニ差出スヘシ
第三拾四條 毎年徵集スベキ新兵徵集人員

○明治十八年十一月二十四日滋賀縣甲第百五十九號布達
毎年徵集スヘキ新兵徵集人員及本年補充員ヲ繰上ケ定期補缺ノ外
入營等ノ儀ニ付今般其筋ヨリ別紙ノ通達相成候條爲心得此旨布達
候事

(別紙)

陸軍省達甲第四十五號

府縣函館沖繩札幌
室ノ四縣ヲ除ク

毎年徵集スヘキ新兵ハ兵額ノ三分一ヲ徵集可致答ニ候處昨今兩年
軍隊編成替及ヒ從來補缺人員ノ多寡ニ由リ右三分一ノ人員ニ過不
足ヲ生シ候ニ付來ル十九年ヨリ各兵種共兵額ノ三分一ヲ最下限ト
シ徵集致候就テハ同年滿期兵ニシテ兵額三分一ノ人員ニ超過スル
モノハ此際各聯隊分屯大隊并ニ聯隊ヲ爲毎ニ府縣ニ平均シ籤番號
ノ高キ者ヨリ除隊歸休セシメ其歸休セシメタル人員丈本年補充員
ヲ繰上ケ定期補缺ノ外入營爲致候條爲心得此旨相達候事

明治十八年十一月十七日

陸軍卿伯爵大山 巖

第三拾五條

陸軍醫官徵兵検査規則

○明治十七年十月十六日滋賀縣告第八拾七號告示
陸軍醫官徵兵検査規則別紙ノ通和定候旨其筋ヨリ達有之候條爲心

得此旨告示候事

(別紙)

陸軍醫官徵兵検査規則(明治十七年十月十日陸軍省達甲第四拾壹號達)

- 第一條 徵兵検査ノ要ハ身體強健精神完全ニシテ定年間ノ役ニ堪
ユヘキ者ト疾病畸形アリテ之ニ堪ユ可カテサル者トヲ區別スル
ニアリ而ノ其服役ニ堪ユ可キ者ヲ以テ合格トシ之ニ堪ユ可カラ
サル者ヲ以テ不合格トス
- 第二條 曾テ重病ニ罹リシモ再發ノ患ナキ者又現ニ輕患微恙ヲ帶
ルモ直ニ兵ニ編入シテ害ナキ者或ハ數日月ノ治療ヲ加レハ快復
ニ至ル目途アル者皆之ヲ合格トスヘシ
- 第三條 疾病傷痍ニ論ナク常備年期內轉歸豫定シ難キ者或ハ醫治
ス可カラサル疾病及畸形ノ者皆之ヲ不合格トスヘシ
- 第四條 身體ノ發育未ダ十全ノ度ニ至ラサル者或ハ急性及慢性病

其他外傷或ハ病後衰弱復セサル者等ニシテ常備年期内恢復ノ月途アル者ハ皆之ヲ翌年ノ検査ニ廻ス可キ者トス

第五條 發作間歇ノ病或ハ晝間確定シ難キ病其他自覺症ノ如キ確實ノ徵候ヲ見サルモノハ之ヲ採ルモ妨ケナシ

第六條 疾病ノ輕重虛實ヲ診定セシカ爲メニ綿密ノ検査ヲ遂ケ學術上諸種ノ法方ヲ施スヲ得ヘシ

第七條 前諸條ニ基キ身體ヲ検査シ其良否ヲ判決スヘキモ殊ニ視官聽官ノ機能及胸廓ノ構造ハ左ノ格ニ適スル者ヲ撰フヘシ

視官ノ機能ハ貳拾尺ノ距離ニ於テ「ステルレン」氏表ノ二十號ヲ明視スル者

聽官ノ機能ハ六尺ノ距離ニ於テ低語ヲ聽取シ得ル者

胸廓ノ構造ハ靜息時ニ於テ其周圍身長ノ半ヨリ大ナル者但呼吸縮張ノ差ハ一寸五分以上ナルヘシ

第八條 體格検査ハ先ツ其全體ヲ視察シ後チ各部ノ構造官能等逐次ニ検査シテ遺漏ナキヲ要ス

第九條 終身兵役ニ堪ユ可ラサル疾病畸形大凡左ノ如シ

- 一 全身發育ノ不全
- 二 全身ノ畸形
- 三 筋肉ノ薄弱甚キモノ
- 四 筋肉ノ羸瘦甚キモノ
- 五 著シク脂肪夥多ノモノ
- 六 著大ナル慢性腺腫起、慢性腺潰瘍、腺癌
- 七 骨若シハ軟部ノ惡性腫瘍及潰瘍
- 八 骨ノ慢性炎及骨潰瘍、腐骨疽
- 九 骨ト癒着スル癭痕若シハ甚ク廣大ナル癭痕ニシテ體部ノ機能ヲ妨ケ若クハ陸軍軍裝ノ着用ヲ妨ケ若クハ着シ醜形ヲナ

スモノ

- 十 進行性筋萎縮、爾余ノ筋變性
- 十一 血管ノ慢性疾病例之ハ動脈瘤
- 十二 血液病
- 十三 尿漏
- 十四 慢性痛風
- 十五 慢性關節僕麻質斯ニテ著ク運動ニ妨ケアルモノ
- 十六 腦及ヒ脊椎ノ慢性疾病
- 十七 神經慢性疾病例之ハ舞蹈病
- 十八 白痴癲狂其他ノ精神病ニシテ確証アルモノ
- 十九 癲癇
- 二十 頭蓋ノ畸形
- 廿一 頭部ノ醜形甚キモノ例之ハ廣潤ナル禿頭

- 廿二 頭蓋骨ノ著大ナル陥没及骨質欠損等
- 廿三 眼瞼ノ内外翻轉、眼瞼結膜ノ癢痕性變性等
- 廿四 淚癭
- 廿五 角膜虹彩等ノ疾病ニシテ著ク視力ヲ妨クルモノ
- 廿六 白內障、黑內障
- 廿七 視力減退シテ尋常視力ノ二分ノ一以下ニ至ルモノ
- 廿八 斜視眼
- 廿九 近視眼
- 三十 遠視眼
- 三十一 一膜ノ失明
- 三十二 夜盲
- 三十三 一耳ノ慢性重聽若クハ聾強度ノ吃語一耳聲ノ缺亡
- 三十四 鼻ノ缺亡若クハ鼻ノ大醜形

- 三十五 鼻前頭竇上顎洞ノ慢性潰瘍腫瘍等
- 三十六 口ノ惡性潰瘍唇頰ノ廣潤ナル癒着口ノ一部ノ閉鎖
- 三十七 齒芽若クハ唇ニ疾病缺損アリテ咀嚼或ハ言語ヲ妨クルモノ
- 三十八 唾癭
- 三十九 口蓋ノ破潰口蓋ノ一部若クハ全部欠損若クハ穿孔癒着等
- 四十 舌若クハ腺ノ腫瘍異常ノ肥大著シキ實質損失ニシテ發語及ヒ嚥下ニ困難ナルモノ
- 四十一 啞聲啞
- 四十二 甲狀腺腫ノ過大ナルモノニシテ呼吸困難ヲ起スモノ
- 四十三 銷骨ノ畸形
- 四十四 喉頭及氣管ノ畸形及著大ナル其慢性疾患

- 四十五 氣管ノ狹窄
- 四十六 著明ナル斜頸ニシテ運動障害ヲ兼スルモノ
- 四十七 脊梁ノ彎曲及ヒ運動ニ障害ヲナシ其疾病及ヒ畸形
- 四十八 胸廓ノ畸形
- 四十九 胸廓ノ構造甚タ薄弱ナルモノ肺及胸膜ノ疾患及其慢性病ニシテ著シク呼吸ニ障害ヲナスモノ
- 五十 頻回發作スル喘息
- 五十一 頻回反復スル咯血
- 五十二 心臟及心囊ノ慢性疾病
- 五十三 腋臭甚シキモノ
- 五十四 骨盤ノ畸形
- 五十五 下腹歇兒尼亞
- 五十六 腹内臟器ノ疾病ニシテ全身ノ健康ニ著明ノ害ヲ及スモノ

- 五十七 慢性直腸弛緩著大ノ痔結節ニシテ有期性失血若クハ膿潰ヲ兼スルモノ
- 五十八 鼠蹊腺ノ過大ナルモノ
- 五十九 痔瘻
- 六十 陰莖全缺
- 六十一 著大ナル尿道畸形例之ハ上裂尿道口及下裂尿道口
- 六十二 泌尿器ノ慢性疾病尿管結石病
- 六十三 陰囊水腫ノ過大ナルモノ
- 六十四 陰囊弛緩ノ甚キモノ
- 六十五 睪丸副睪丸ノ慢性炎若クハ其肥大甚キモノ
- 六十六 睪丸尙腹輪中ニ在テ疼痛ヲナスモノ
- 六十七 睪丸及精系ノ惡性腫瘍兩睪丸ノ缺亡等

- 六十八 精系ノ靜脈擴張ニツテ容積廣大ナルカ若クハ睪丸ノ變質ヲ兼スルモノ
- 六十九 四肢ノ著大ナル延長短縮灣曲強直假關節等
- 七十 四肢ノ肥大麻痺萎小
- 七十一 關節ノ畸形強直
- 七十二 諸關節ノ慢性疾病及著大ナル疾患並ニ關節弛緩シテ尋常ノ運動ニ由テ腕臼ヲ將來スル度ニ至リシモノ
- 七十三 拇指及示指ノ爪甲全失
- 七十四 拇指示指ヲ除クノ他指爪全缺シテ其用ニ妨ケアルモノ
- 七十五 指若クハ趾ノ交互ノ癒着
- 七十六 左右ニ論ナク一指ノ欠損灣曲強直等
- 七十七 脚ノ過大ナル靜脈結節ニシテ運動ニ妨ケアルモノ下腿ノ潰瘍痕等ニシテ運動ニ妨ケアルモノ

七十八 膝關節ノ内外前後屈曲

七十九 足ノ變形(内翻足若クハ馬蹄狀足扁足等)

八十 足蹠汗ノ惡臭甚シキモノ

八十一 一大趾ノ缺亡若クハ切斷

八十二 大趾ヲ除ク外ノ數趾ノ缺亡

八十三 一趾若クハ數趾ノ著大ナル彎曲ニシテ靴ヲ穿ツト能ハサルモノ

八十四 剩趾ニシテ同上ノ妨碍アルモノ

以上掲載ノ外百般ノ疾病畸形ハ前各條ニ照準シテ詳細ノ検査ヲ遂ケ其服役ニ堪ユルヤ否ヲ判決スヘシ

第三拾六條 徵兵免役出願ノ者等へ虛妄ノ診斷書ヲ與フ可カラザル事

○明治八年九月十四日滋賀縣甲第二百二拾號布達開業醫師へ

徵兵免役出願候者或ハ軍副區長戸長共退役致シ度等ノ者へ診察書相與へ候儀ハ素ヨリ醫師タル者ノ職分ニ候處中ニハ僅ニ病容ヲ一診致シ候マテニテ投藥等ノ施術モ不致其病體ノ輕重ヲモ推窮セス或ハ輕微ノ病症ヲ以テ難症不治ノ徵ナド、認メ甚敷ニ至リテハ其病容ヲ一診ヲモ不致唯先方ノ依頼ヲ以テ虛妄ノ儀ヲ相認メ診斷書相與へ候者モ有之哉ニ相聞へ右ハ其職業上ニ於テ最モ有之開敷筋ニテ以テノ外ノ事ニ付自今右等ノ所業相露ル、ニ於テハ急度取亂相當ノ處分可及候條此旨相心得右等ノ惡弊無之様可致事

右管内醫術開業ノ者ニ無洩至急布達スル者也

第三拾七條 新兵入營ノ時ニ當リ疾病脫走等ヲ口實トナシ入營ノ期ニ後ル、者ナキ様諭示ノ事

○明治十六年三月六日滋賀縣諭達

常備歸休兵及ヒ豫備後備ノ軍籍ニ在ルモノ召集ノ時ハ勿論毎年徵

兵入營ノ時ニ當リ疾病又ハ脫走或ハ其他ノ事故ヲ以テ入營ノ期ニ後ル、者ノ内其容體診斷書ト齟齬シ又ハ脫走ト稱シ其實所在分明ナル者有之哉ノ趣ニ相聞右等ノ儀ハ決テ無之等ニ候得共萬一心得違ノ者有之候テハ本人ノ刑律ニ觸ル、ハ勿論其証印ヲナセシ者モ亦俱ニ其責免レサル儀ニ有之候條厚ク徵兵大典ノ御趣意ヲ奉体シ心得違無之様可致此旨諭達候事

第三拾八條 送籍ノ節徵兵調査上要用ノ書類添付ノ事

○明治十九年十二月二十日滋賀縣令乙第八十號(公報十二月二十二日) (郵役所、局長役場へ)

今般内務省令第二十二號ヲ以テ戶籍取扱手續決定尋ヒテ本縣令乙第七十九號ヲ以テ戶籍簿編製手續及戶籍登記書式并送籍狀入籍報知書々式等相示シ候ニ就テハ自今他へ送籍スルモノハ徵兵調査上要用ノ義有之ニ付假令死亡又ハ他籍ニ移リタルモノト雖モ會テ

内務省令第二十二號本縣令乙第七十九號ハ本編ニ入用ナキニ付登載セス

該家ノ戶主タリシモノ及嗣子承祖ノ孫相續人ノ位置ニアリシ男子若クハ徵兵現役中死没シタルモノ等ハ其戶籍寫又處刑ヲ受ケシモノ等ハ其罪名刑名及宣告年月日ヲ別紙ニ詳記シ送籍狀ニ添付スヘシ

但他府縣ヨリ入籍ノモノモ本文同様添付スヘキ旨及照會置タルニ付其旨心得ヘシ

第三拾九條 徵兵令中改正ニ付現役兵豫備兵後備兵服役年期起算方等ノ事

○明治十二年十一月八日陸軍省布第壹號布達
今般第四拾六號布告徵兵令改正相成候付從前之第一後備軍ヲ豫備軍第二後備軍ヲ後備軍ト改稱右在籍之者服役年期計算之儀別紙之通可相心得此旨布達候事

(別紙)

第四十六號布告徵兵令ハ十六年十二月二十八日太政官第四十六號布告ヲ以テ全部改正其和告ハ第九條ニ出

勅令第七十三號ハ第九條ニ

一 第一後備軍ヲ豫備軍ト改稱シ第一後備軍服役中ノ者ハ最初第一後備軍ヘ編入セシ年ノ四月二十日ヨリ起算シ三ケ年ノ役ニ服セシメ豫備軍滿期ノ後成規ノ如ク後備軍ヘ編入スヘシ

但定期ニ非スシテ臨時第一後備軍ヘ編入セシ者ハ其編入セシ日ヨリ起算シ三ケ年ノ役ニ服セシメ豫備軍滿期ノ後成規ノ如ク後備軍ヘ編入スヘシ

一 第二後備軍ヲ後備軍ト改稱シ第二後備軍服役中ノ者ハ最初第二後備軍ヘ編入セシ年ノ四月二十日ヨリ起算シ四ケ年ノ役ニ服セシムヘシ

但定期ニ非スシテ臨時第二後備軍ヘ編入セシ者ハ其編入セシ日ヨリ起算シ四ケ年ノ役ニ服セシムヘシ

○ 明治十九年十一月三十日閣令第三十一號(官報十二月一日)

勅令第七十三號ヲ以テ明治十六年布告徵兵令中改正追加ノ處今十

九年徵兵適齡者并目下在役中ノ現役兵豫備兵後備兵取扱方左ノ通之ヲ定ム

○ 今十九年徵兵適齡者ニシテ現役兵當籤ノ者ハ明治二十年四月二十日ヨリ五月二十日迄ノ間ニ入營セシメ其服役年期ハ同年四月二十日徵兵令第四十一條ニ當ル者ハ入營ノ日ヨリ起算シ補充員當籤ノ者ハ明治二十年四月二十日ヨリ起算シ滿一箇年ノ後第一豫備徵員ニ編入ス

一 現役兵服役年期ハ入營年ノ四月二十日ヨリ起算シ豫備兵後備兵服役年期ハ其編入年ノ四月二十日ヨリ起算ス

第四拾條 徵兵常備現役中傷痍疾病ニ罹リ一時服務ニ堪ヘザル者取扱方

○ 明治十九年六月二日滋賀縣甲第八拾三號布達六月五日發布

徵兵常備現役中傷痍疾病ニ罹リ一時服務ニ堪ヘサルトモ尙ホ後來全癒服務ニ堪ユルノ見込アル者ハ生兵卒業後ナレハ郷里ニ歸休セシメ又卒業以前ナレハ第一豫備徵員ニ編入シ到底服務ニ堪ヘサルモノハ除役スル旨陸軍省令甲第二十四號本年五月ヲ以テ達セラル右布達ス

第四拾壹條

現役輜重輸卒ニテ入營セザル者讀法式并ニ手帖渡方手續

○明治十八年三月二十五日滋賀縣甲第三十八號布達

現役輜重輸卒ニテ入營セス郷里ニ在テ服務中ノ者讀法式並ニ手帖渡方手續別紙ノ通其筋ヨリ達有之候條爲心得此旨布達候事

(別紙)

陸軍省達甲第十三號

府

縣 沖繩 札幌 根室
ノ三縣ヲ除ク

左之通各鎮台へ相達候條爲心得此旨相達候事

明治十八年三月十八日

陸軍卿伯爵大山

巖

各 鎮 臺

現役輜重輸卒ニテ入營セス郷里ニ在テ服役中ノ者讀法式並ニ手帖渡方手續別紙ノ通相定候條此旨相達候事

明治十八年三月十三日

陸軍卿伯爵大山

巖

(別紙)

現役輜重輸卒ニテ入營セス郷里ニ在テ服役スル者讀法並ニ手帖附與ノ手續

一現役輜重輸卒ニテ入營セス郷里ニ在テ服役スル者ハ豫備役後備役輜重輸卒點呼ノ節之ヲ點呼場ニ呼出シ讀法式ヲ施行スヘシ但點呼場ハ概ネ一日間ニ往復ヲ爲シ得ヘキ里程内ノ地ニ設クルヲ以テ輸卒點呼場ノ往復旅費等ハ官ヨリ之ヲ給セサルモノ

兵事

徵兵

トス

徵兵事務條例
ハ第十條ニ出

一讀法式ハ各員ヲ環列セシメ郡區駐在官其中央ニ在テ讀法ヲ朗讀
シ終テ各員ヲシテ手帖中ノ誓文ニ署名捺印セシムヘシ

一讀法式施行ノ後ハ各員ニ手帖ヲ附與シ直ニ解散歸家セシムヘシ

一前條ノ手帖ハ豫メ後備軍司令部ニ於テ徵兵事務條例第六十九條
第七項及ヒ第十二項名簿ニ據リ所要ノ事項ヲ記入シ點呼季節ニ
先チ府縣駐在官ヲ經テ郡區駐官ニ渡シ置クヘシ

一現今豫備役ニ在ル輻重輸卒ニテ曾テ入營セサルモノハ本年點呼
ノトキ之ヲ呼出シ讀法式ヲ行ヒ且手帖ヲ附與スヘシ

第四拾貳條 現役輻重輸卒在郷中取扱方

輻重輸卒概則
ハ第四十四條
ニ出

○明治十九年四月八日滋賀縣告第五拾四號告示(四月十三日發布)
現役輻重輸卒ノ儀輻重輸卒概則第三條第四條ニ據リ毎年各軍管ニ
於テ三百六十名宛チ入營セシムヘキ筈ニ候處軍隊編制ノ都合有之

今年本縣甲第
三十八號布達
ハ第四十一條
ニ出

本年ニ限り第二第三軍管ニ於テハ九十名宛其他ノ軍管ハ百二十名
宛入營セシメ殘餘ノ者ハ郷里ニ於テ服役セシムヘキ旨陸軍省令甲
第九號本年四月五日チ以テ達セラル

但郷里ニ在テ服役ノ者即入營スヘキ人員ハ昨十八年陸軍省達甲
第拾三號達即チ全年三本縣甲第三拾八號布達ニ據リ讀法式ヲ施
行シ且ツ手牒ヲ附與シ其日ヨリ歸休兵同様取扱フモノトス

右告示ス

○明治十九年七月二十四日滋賀縣令甲第壹號滋賀縣徵兵事務取扱
手續第八章ノ内

(本文ハ第貳
拾九條ニ出)

第四拾三條 輻重輸卒結婚ノ事

○明治十九年八月六日滋賀縣令甲第七號公報八月十一日
現役輻重輸卒ノ儀入營期日即四月二十日後ハ結婚不相成儀ニ候處

二十年三月九
日閣令第三號
ヲ以テ徵兵事
務條例中改正

ノ其旨令
其旨令
第十條三出

本縣告示第
第十條三出

十三本縣甲
第十八號布達
初編百五十
四條三出

自今諸兵同様入營前ハ結婚スルヲ得ヘキ旨本年七月陸軍省令甲第三十五號ヲ以テ達セラル

但本年四月本縣告示第五十四號告示即陸軍省令甲第九號達ニ據リ郷里ニ於テ服役ノ者ハ讀法式施行前亦本文ニ同シ

第四拾四條 輜重輸卒概則

○明治十八年十二月十九日滋賀縣甲第七十六號布達

明治十三年三月本縣甲第十八號布達中輜重輸卒概則改正ノ儀別紙ノ通其筋ヨリ達相成候條此旨布達候事

(別紙)

達甲第四十七號

府縣 沖繩札幌根室
ノ三縣ヲ除

輜重輸卒概則左之通改正候條此旨相達候事

明治十八年十二月三日

陸軍卿伯爵大山

巖

輜重輸卒概則

第一條 輜重輸卒ハ輜重兵隊ニ入營セシメ戰時若クハ事變ノ際輜重諸般ノ用ニ供ス

但演習及ヒ行軍ノ際ハ本條ニ準スルコトアル可シ

第二條 輸卒ニシテ徵集セシ者ハ一ケ年間現役ニ服セシメ役終レハ豫備役ニ編入シ六ケ年ノ後後備兵役ニ編入ス

第三條 輸卒ノ現役人員ハ毎年各軍管ニ於テ三百六十八宛ヲ徵集ス

第四條 輸卒ノ現役人員ハ之ヲ三期ニ分テ每一期ノ在營期限ヲ四箇月トシ各自抽籤ノ番號順序ヲ以テ四月八月十二月ノ三回ニ入營セシムルモノトス

但現役輸卒ニシテ退營後豫備役編入迄ハ總テ歸休兵ニ準シ取扱フモノトス

第五條 輸卒中組長ニ適任ト認ムル者ハ退營ノ際輜重隊長適任證

書ヲ附與シ所要ノ日組長ノ職務ヲ奉セシムルコトアル可シ
 第六條 所要ノ日ニ當リ召集スル所ノ輸卒ニハ適宜ノ被服紫章色ノ
附ヲ與ヘ日給ハ輻重兵二等卒ニ同フス
 但戰時増俸ヲ給スルノ場合ニ在テハ組長ノ職務ヲ奉スルモノ
 ニハ日給ノ外輻重兵二等卒ニ同シキ増俸ヲ給ス
 第七條 輸卒組長ノ職務ヲ奉スル者ニハ徒卒刀ヲ佩ハシメ袖章ニ
 白帛一線幅一寸ヲ附ス

輸卒重組長適任證書雛形

七寸八分

五寸六分

第何號

輸卒重組長適任證書

府縣族籍

何 鎮臺

姓名

右輻重輸卒組長ノ職務ニ適當
ノ者ト確認候也

明治何年何月何日

職官位勳姓名印

八寸二分

第四拾五條 一年志願兵取扱規則

○明治十九年七月五日滋賀縣甲第百七號布達(七月八日發布)

一年志願兵取扱規則別紙ノ通定メタル旨陸軍省令甲第二十九號

六月二十日ヲ以テ達セラル

右布達ス

(別紙)

一年志願兵取扱規則

徵兵令ハ第九條ニ出

徵兵看護卒取扱手續ハ第四十六條ニ出

第一條 此規則ハ徵兵令第十一條ニ依リ一箇年間陸軍現役ニ服スル志願兵ノ取扱方ヲ示スモノトス

第二條 志願兵ハ鎮臺下屯在ノ歩兵隊ニ編入シ歩兵ニ在テハ服役中該隊ニ於テ教育ヲ爲サシメ看護卒ニ在テハ徵兵看護卒取扱手續第七條ノ第一教科ノミヲ該隊ニ於テ教習セシム

第三條 志願兵編入ノ法ハ教育上ノ都合ニ由リ悉皆一聯隊ニ編入

シ或ハ其人員ヲ分テ各聯隊ニ編入ス可シ

第四條 志願兵取扱ハ步兵ニ在テハ入營後概ネ二箇月間ハ他ノ生
兵ト同一ニシテ其後ハ修業兵ニ準シ看護卒ニ在テハ概ネ徵兵看
護卒取扱手續ニ據ルモノトス

第五條 歩兵志願者教育ハ概ネ修業兵ニ準スト雖モ其進歩ノ程度
ニ從ヒ適宜ノ學術ヲ教授スヘシ

第六條 看護卒志願者教育ハ徵兵看護卒ト共ニ之ヲ爲サシメ而シ
テ徵兵看護卒取扱手續第七條ノ第一教科ヲ卒レハ之ヲ鎮臺病院
ニ附屬セシメ同條第二第三教科ヲ教習スルノ後其進歩ノ程度ニ
從ヒ適宜ノ學術ヲ教授ス可シ

第七條 學術進歩ノ程度ニ從ヒ徵兵令第十一條第二項ニ據リ一箇
年未滿ニシテ歸休ヲ命スヘキ者アルトキハ步兵ハ聯隊長之ヲ檢
覈シ旅團長ニ看護卒ハ軍醫長之ヲ檢覈シ鎮臺司令官ニ具申シ許

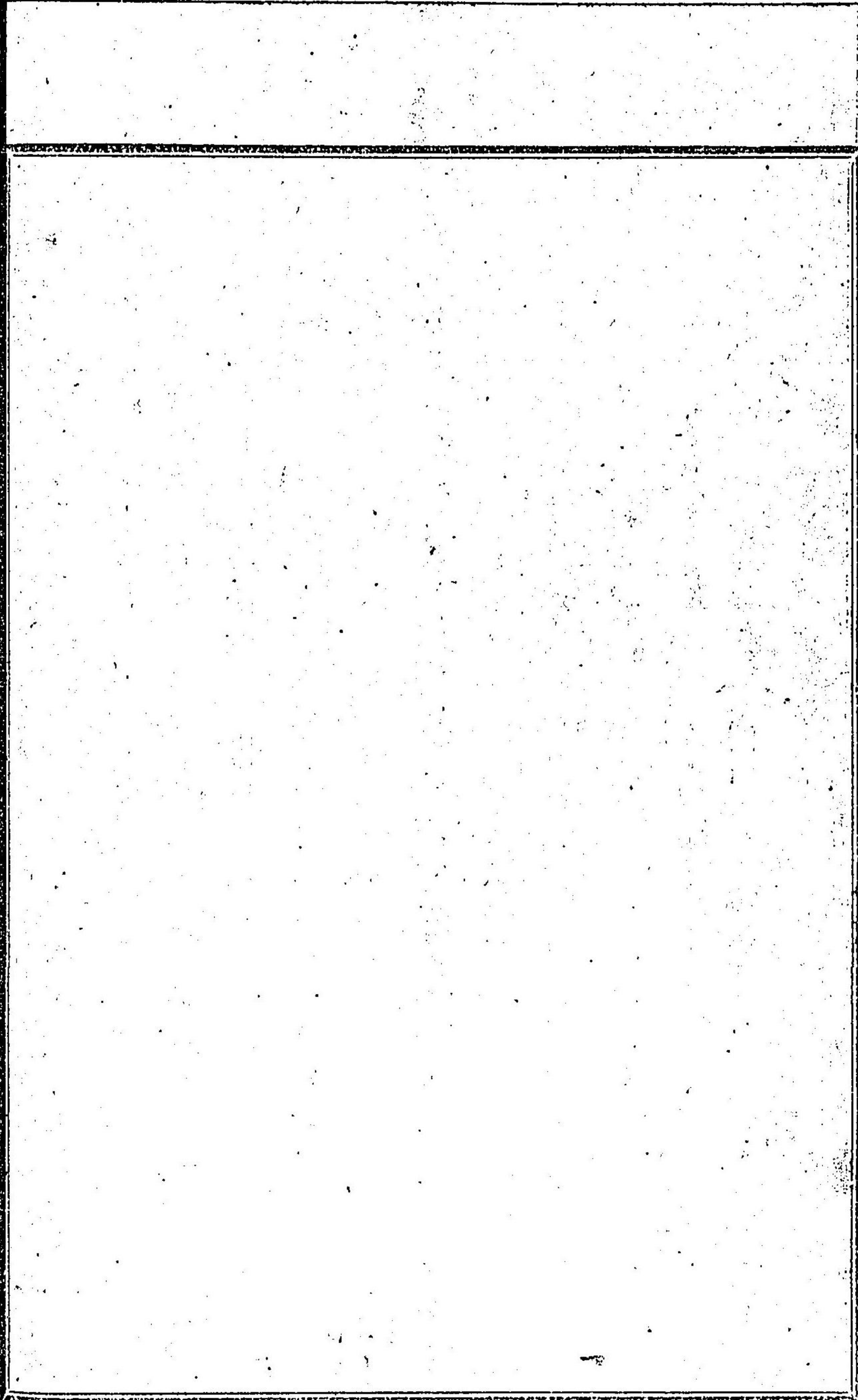
可ヲ受ク可シ

第八條 志願兵中品行方正勤務勉勵ニシテ技藝ニ熟達シ下士ノ任
ニ堪ユ可キ者ハ滿期若クハ歸休ヲ命スルノ際步兵ハ聯隊長看護
卒ハ軍醫長下士適任證書ヲ附與ス可シ又教育上振群ノ結果ヲ得
タルモノハ聯隊長又ハ軍醫長ヨリ旅團長又ハ鎮臺司令官ニ具狀
シ許可ヲ得テ士官適任證書ヲ附與ス可シ

但士官適任證書ハ鎮臺司令官陸軍大臣ノ許可ヲ得テ豫備役下
士ニ任スルノ後之ヲ附與スルモノトス

第九條 軍醫部士官適任證書ヲ附與スル者ハ官立及ヒ公立醫學校
卒業證書又ハ醫術開業免狀ヲ所持スルモノニ限ル

第十條 志願兵現役滿期豫備役ニ編入ノ手續ハ尋常現役兵滿期ノ
例ニ準ス可シ又豫備役編入後ハ凡テ尋常現役兵ニテ豫備役編入
後ノ取扱ニ異ナルヲナシ

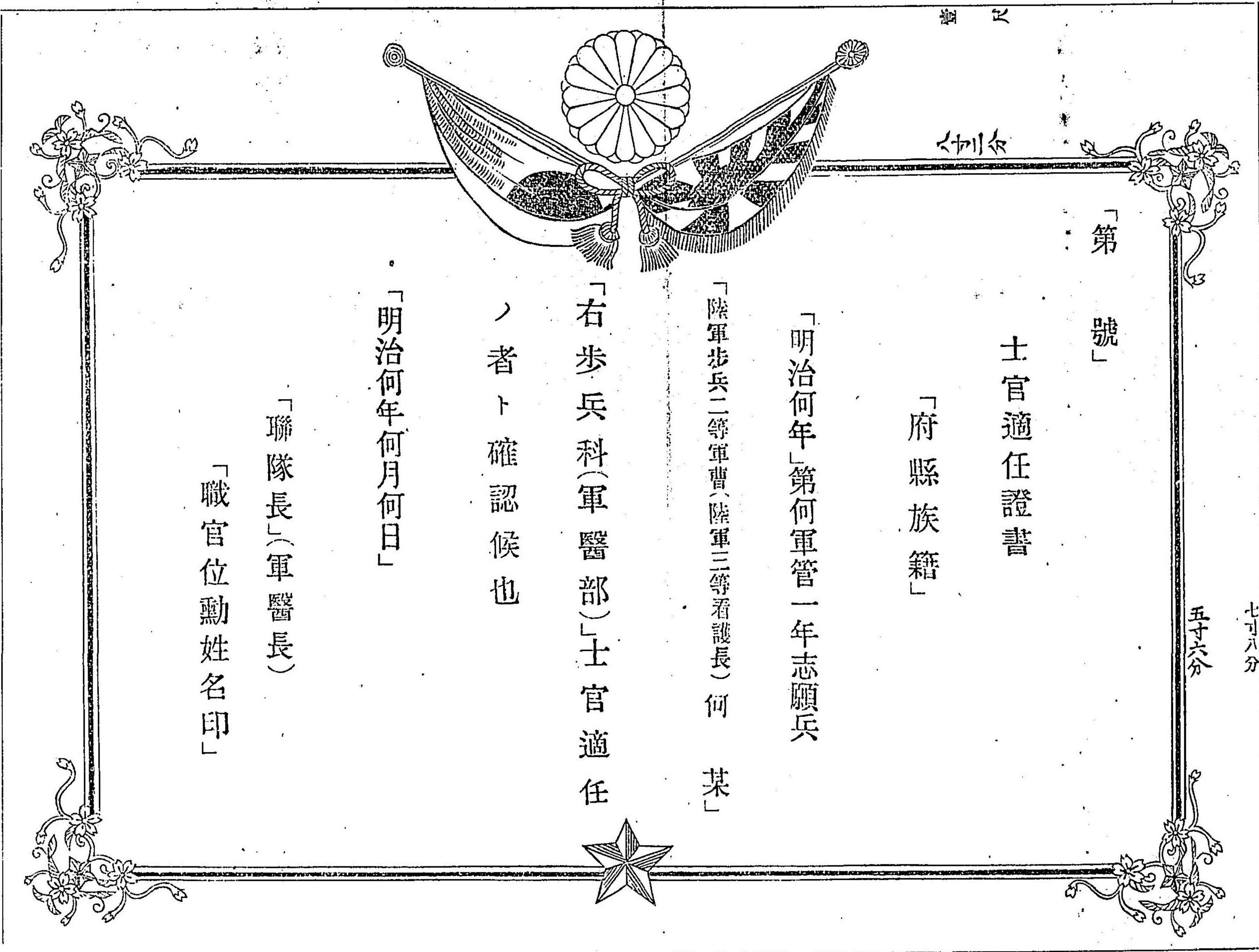


「印ノ文字ハ朱書」

七寸八分

五寸六分

雛形



「第 號」

士官適任證書

「府縣族籍」

「明治何年」第何軍管一年志願兵

「陸軍歩兵二等軍曹(陸軍三等看護長)何 某」

「右歩兵科(軍醫部)士官適任

ノ者ト確認候也

「明治何年何月何日」

「聯隊長(軍醫長)」

「職官位勳姓名印」

證書ハ所管ノ鎮臺ニ於テ調製シ料紙ハ鳥ノ子紙ノ類ヲ用ヒ
上木ノ節朱書ノ文字ヲ省キ置附與ノ時之ヲ加書ス可シ

雛形

外欄并紋様等ハ前雛形ト異ナルヲナシ故ニ茲ニ略ス

七寸八分

五寸六分

「第 號」

下士適任證書

「府縣族籍」

「明治何年」第何軍管一年志願兵

「歩兵(看護卒) 何 某」

「右歩兵科(軍醫部)」「下士適任」

者ト確認候也

「明治何年何月何日」

「聯隊長(軍醫長)」

「職官位勳姓名印」

證書ハ所管ノ鎮臺ニ於テ調製シ料紙ハ鳥ノ子紙ノ類ヲ用ヒ
上木ノ節朱書ノ文字ヲ省キ置附與ノ時之ヲ加書ス可シ

第四拾六條 徵兵看護卒取扱手續

○明治十九年四月九日滋賀縣甲第五拾八號布達(四月十三日發布)

徵兵看護卒取扱手續別紙ノ通相定候旨陸軍省令甲第拾號月五日ヲ以テ達セラル

右布達ス

(別紙)

徵兵看護卒取扱手續

- 第一條 徵兵看護卒取扱方ハ總テ生兵概則ニ據リ其他ノ諸則モ諸兵ニ同シト雖トモ其異ナル所ノ者ハ此手續ニ準據ス可シ
- 第二條 徵兵看護卒ハ諸兵ト同時ニ徵集シ近衛ニ要スル人員ハ近衛步兵隊ニ營所并ニ分營ニ要スル人員ハ其最寄居住ノ者ヲ以テ其步兵隊ニ編入セシメ其他ハ悉ク鎮臺所在地ノ步兵隊ニ編入シ
- 第七條ノ第一教科ヲ教習セシム

生兵概則ハ滋賀縣管下ニ頒布ナキニ付登載セス
十九年五月十日滋賀縣通知ヲ以テ第二條中訂止其通知ハ後ニ出

十九年五月十日
日滋賀縣通知
ヲ以テ第三條
中訂正其通知
ハ後ニ出

十九年五月十日
日滋賀縣通知
ヲ以テ第六條
中訂正其通知
ハ後ニ出

第三條 前條ノ教習卒レハ該卒ヲ近衛鎮臺ニ在テハ軍醫長營所ニ在テハ病院長分營ニ在テハ隊附醫官ニ渡ス可シ

第四條 軍醫長病院長又ハ隊附醫官ニ於テ看護卒ヲ受取トキハ看護長ヲシテ第七條ノ第二第三教科ヲ教習セシム可シ

但病院內看護卒舍狹隘ニシテ其總員ヲ容レ難キトキハ便宜若干名ヲ步兵隊ニ留メ病院ニ通學セシムルモ妨ケナシ

第五條 第七條第二第三ノ教科ハ看護長ヲシテ專ラ之ヲ教習セシムト雖モ醫官之ヲ指揮監査ス可シ

第六條 教習全ク卒レハ近衛鎮臺ニ在テハ軍醫長營所ニ在テハ病院長分營ニ在テハ隊隊長其熟否ヲ檢査シ都督或ハ司令官又ハ旅團長ノ許可ヲ得テ二等看護卒ヲ命スルモノトス

但鎮臺并ニ近衛及七鎮臺營所病院ニ在テハ二等看護卒ヲ命セシトキハ諸隊ニ要スル人員ハ直ニ配賦ス可シ爾後病氣事故等

ニテ缺員ヲ生スルトキハ鎮臺營所ニ在テハ病院附看護卒ノ内ヨリ之ヲ補ヒ近衛ニ在テハ補充員ニテ第七條ノ教科ヲ卒業シタル後之ヲ補フモノトス

第七條 徵兵看護卒ニハ左ノ教科ヲ教習シ六箇月間ニシテ卒業セシム可シ

第一教科

其一 柔軟體操

第一部第四
章第二教迄

其二 步兵教練

一步兵操典
第二章第二教迄

第二教科

其一 人體構造ノ概略

其二 看護卒背囊并携帶具ノ用法

其三 三角紉帶用法

其四 紉帶撒絲ノ製造

兵專 徵兵

其五 綑帶術

第三教科

其一 看護法

其二 治療介輔法

其三 救急法

其四 患者運搬法

其五 調劑法大意

第八條 看護卒一名ニ付教習ニ要スル品目左ノ如シ

- 一 看護卒教科書 一冊
- 一 圖附三角綑帶 一枚
- 一 白地三角綑帶 二枚
- 一 片頭軸綑帶 三卷
- 一 布 六尺

一 布袋 一箇

但以上ノ品目ハ滿期ノ際各自ニ附與スル者トス

○明治十九年五月十日滋賀縣通知

本年四月本縣甲第五十八號布達即チ陸軍省令甲第拾號達徴兵看馬卒取扱手續第二條中徴集シノ下「近衛ニ要スル人員ハ近衛歩兵隊ニ」ノ十五字ヲ又第三條及第六條中鎮臺ノ上「近衛」ノ二字ヲ又第六條中檢査シノ下「都督或ハ」ノ四字ヲ同條但書中生スルトキハ「下」鎮臺營所ニ在テハ「ノ」八字及看護卒ノ内ヨリ「下」之ヲ補ヒ近衛ニ在テハ補充員ニテ第七條ノ教科ヲ卒業シタル後「ノ」二十八字ヲ脱ス又第二條中其歩兵隊ニ「下」編入セシメ「ノ」五字ハ行第六條但書中「鎮臺并ニ」ハ「近衛及ヒ鎮臺」ノ誤本年五月官報第八五〇號揭示

第四拾七條 徴兵看馬卒取扱手續

○明治十八年四月二十一日滋賀縣甲第五拾貳號布達

徴兵看馬卒取扱手續原本ノマ、徴兵看護卒取扱手續ノ誤ナリ
 本年本縣甲第五十八號布達ハ前ニ出

十九年四月九日滋賀縣甲第

五十七號布達
ヲ以テ十九年
徵集ノ徵兵看
馬卒ニ適用ス
旨ヲ布達ス其
布達ハ後ニ出

十九年四月九
日滋賀縣甲第
五十七號布達
ヲ以テ十九年
徵集ノ徵兵看
馬卒ニ適用ス
旨ヲ布達ス其
布達ハ後ニ出

生兵概則ハ後

賀縣管下ニ額
布ナキニ付登
載セス

明治十八年徵兵看馬卒取扱手續別紙ノ通其筋ヨリ達有之候條此旨
布達候事

達甲第拾七號

府縣 沖繩札幌根室
三縣ヲ除ク

左ノ通各鎮臺へ相達候條爲心得此旨相達候事

明治十八年四月九日

陸軍卿伯爵大山 巖

各 鎮 臺

明治十八年徵兵看馬卒取扱手續別冊之通相定候條此旨相達候事

明治十八年四月九日

陸軍卿伯爵大山 巖

(別冊)

明治十八年徵兵看馬卒取扱手續

第一條 本年徵兵看馬卒取扱方ハ總テ生兵概則ニ據リ其他ノ諸則

モ諸兵ニ同シト雖モ其異ナル所ノ者ハ此手續ニ準據ス可シ

第二條 徵兵看馬卒ハ諸兵ト同時ニ召集シ近衛及ヒ鎮臺ノ砲兵隊

ニ編入シ第十條ノ第一教科ヲ教習セシム

第三條 前條ノ教習卒レハ砲兵隊ニ在テハ該卒ヲ其隊ノ獸醫官ニ

渡ス可シ

第四條 獸醫官ニ於テ看馬卒ヲ受取ルトキハ看馬長ヲシテ第十條

ノ第二第三教科ヲ教習セシム可シ

第五條 第十條第二第三ノ教科ハ看馬長ヲシテ專ラ之ヲ教習セシ

ムト雖モ獸醫官之ヲ指揮監査ス可シ

第六條 教科ノ教習全ク卒レハ砲兵隊隊長其熟否ヲ檢査シ近衛都

督若クハ鎮臺司令官ニ具申シ許可ヲ得テ二等看馬卒ヲ命スル者

トス
但砲兵隊ニ於テ二等看馬卒ヲ命セントキハ他ノ諸隊ニ要スル

十九年四月九日
滋賀縣甲第五十七號布達
ナ以テ第九條ヲ削除ス其布達ハ後ニ出

八員ヲ直ニ該隊ニ配賦ス可シ

第七條 徵兵看馬卒病氣事故等ニテ缺員ヲ生スルトキハ其年補充員ヲ以テ補フ者トス其教習ノ方法ハ前數條ニ同シ

第八條 徵兵看馬卒ハ總テ屯營内ニ宿スル者トス其服務ノ規則ハ別ニ之ヲ定ム

第九條 徵兵看馬卒ハ近衛都督若クハ鎮臺司令官ニ於テ統轄スト雖モ其職務ニ至テハ病馬廐長之ヲ管掌スル者トス
第十條 徵兵看馬卒ニハ左ノ教科ヲ教習シ六ヶ月間ニシテ卒業セシム可シ

第一教科

一 砲兵教練 砲兵操典 徒歩 三兵ノ部(豫) 教練業中器械体操ヲ除ク

第二教科

其一 馬外貌名所

其二 背囊入諸品名稱

其三 病馬取扱要法

其三 教科

其一 顛倒器械要法

其二 外治修理

其三 綑帶撒系ノ製造

第十一條 徵兵看馬卒一名ニ付教習ニ要スル圖書左ノ如シ

一 馬外貌圖 一枚

一 外科術概論 一冊

一 藥物學初歩 一冊

一 馬學提要 一冊

計四種

○明治十九年四月九日滋賀縣甲第五拾七號布達(四月十三日發布)

十八年本縣甲
第五十二號布
達ハ前二出

十五年本縣甲
第九十九號布
達徵兵入費定
則ハ現行ニ非
ス故ニ略ス但
滋賀縣布令類
纂初編第百三
十七條ニ出

本年徵集ノ徵兵看馬卒ノ儀ハ明治十八年本縣甲第五拾貳號布達
全年徵兵看馬卒取扱手續ニ據リ取扱全取扱手續第九條削除相成候
旨陸軍省令甲第拾壹號本年四月六日ヲ以テ達セラレ

第四拾八條 徵兵旅費定則

○明治十八年七月二十三日滋賀縣甲第百六號布達
徵兵入費定則十八年度限り相廢シ徵兵旅費定則別紙之通相定メ來
ル十九年度ヨリ施行候旨其筋ヨリ達有之候條此旨布達候事
但明治十五年五月本縣甲第九拾九號布達ハ此布達ニ依リ來ル十九
年度ヨリ消滅候義ト心得ヘシ

(別紙)

第四拾貳號

府 縣 沖繩 札幌 根室
ノ 三 縣 除ク

明治十五年三月陸軍省達甲第六號徵兵入費定則十八年度限り相廢
シ徵兵旅費定則左ノ通相定メ來十九年度ヨリ施行ス
右相達候事

明治十八年七月十七日

大藏卿伯爵山縣有朋

徵兵旅費定則

第一條 檢丁及呼出ニ係ル檢丁ノ父兄並ニ抽籤總代人檢査所又ハ
抽籤場ニ入旅費ハ往復六里旅行ヨリ一里ニ付金貳錢五厘ノ割合
ヲ以テ之ヲ給ス其支給方法ハ一檢査所又ハ一抽籤場毎ニ打切リ
一里未滿ノ端數ハ切棄トス若シ同所ニ滞在セシムルハ滞在日
當金貳拾貳錢ヲ給ス
第二條 檢丁若シハ呼出ニ係ル父兄癡疾不具等ニシテ保護人ヲ要
セサレハ檢査所ニ出頭シ難キ場合ニ於テ該保護人ニ給スル旅費
並滞在日當額ハ前條ニ據ル

第三條 檢丁若ク或呼出ニ係ル父兄癡疾不具等ニシテ歩行シ難キ
 モノハ第一條旅費日當ノ外二里ニ付金七錢ノ割ヲ以テ車駕賃ヲ
 給スルモ一里ニ付金五錢ノ割ヲ以テ歩行シ難キ者ハ
 第四條 新兵入營ノ旅費ハ三里以上ヨリ一里ニ付金四錢ノ割ヲ以
 テ給シ若シ滞在セシムルキハ滞在日當金貳拾八錢ヲ給シ其附添
 人ハ一般旅費定則ニ據リ支給スルモ一里ニ付金四錢ノ割ヲ以
 第五條 新兵入營途中川留雪支船待若クハ病氣等ニテ延滞ノキハ
 其地郡區長又ハ戶長ノ證明書及醫師ノ診斷書ヲ以テ滞在日當
 ナ給ス又疾病是痛等ニシテ歩行シ難ク車駕ヲ雇ヒタルトキハ醫
 師ノ診斷書及通運會社等ノ受取證書ヲ以テ限リ其車駕賃ヲ
 給スルモ
 第六條 但車駕賃ノ申請書ハ入營附添人ノ證明書其附添人ナキ場合ハ
 即チ沿道戶長ノ證明書ヲ付テ給スルモ一里ニ付金五錢ノ割ヲ以テ

十六年十二月
 二十八日太政
 官第四十六號
 布告徵兵令第
 四十四條ニ依
 テ第百七十八
 條消滅ス其徵
 兵令ハ第九條
 ニ出

第六條 各廳ノ便宜ニヨリ此定則中ノ給額ヲ減少スルハ適宜ナル

○明治十八年六月一日海軍省乙第七號達 沖繩札幌根室ノ三
 海軍徵兵入費ニ係ル事務自今大藏省ニ於テ主管候條右ニ係ル件ハ
 同省ニ可申出此旨相違候事

第四拾九條 徵兵免役ヲ圖リタル者ノ刑律

○明治十三年七月十七日太政官第三拾六號布告刑法ノ内
 第百七十八條 陸海軍ノ徵兵ニ編入セラル可キ者身體ヲ毀傷シテ
 疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ以テ免役ヲ圖リタル時ハ一月以
 上一年以下ノ懲禁錮ニ處シ三回以上三拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス
 若シ他人ニ囑託シ其氏名ヲ詐稱シ代テ徵募ニ應ジシメタル者亦
 同シ其囑託ヲ受ケテ徵募ニ應ジタル者ハ第二百三十一條ノ例ニ
 照シテ處斷ス

第二百十五條 公務ヲ免カル可キ爲メ醫師ノ氏名ヲ用ヒ疾病ノ證書ヲ偽造シテ行使シタル者ハ自己ノ爲メニシ他人ノ爲メニスルヲ分クヌ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

醫師囑託ヲ受ケテ其詐僞ノ證書ヲ造リタル者ハ一等ヲ加フ

第二百十六條 陸海軍ノ徵兵ヲ免カル可キ爲メ疾病ノ證書ヲ偽造シテ行使シタル者及ヒ囑託ヲ受ケテ其詐僞ノ證書ヲ造リタル醫師ハ前條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ

第二百三十一條 官署ニ對シ文書又ハ言語ヲ以テ其屬籍身分氏名年齢職業ヲ詐稱シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五拾條 徵兵故ナク徵集ノ期ニ後ル、者ノ刑律

○明治十四年十二月二十八日太政官第六拾九號布告陸軍刑法ノ内
第七條 徵兵故ナク徵集ノ期ニ後レ十日ヲ過ッル者ハ十一日以

上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ戰時ニ在テ五日過ッル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス (第一項)

○明治十四年十二月二十八日太政官第七拾號布告海軍刑法ノ内
第二百一十一條 新募ノ兵徵集ノ命ヲ受ケ故ナク到着ノ期限ニ後レタル者ハ左ノ區別ニ從フテ處斷ス

一出師ノ時ニ在テ五日ヲ過ギタル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

二其他ノ場合ニ在テ十日ヲ過ギタル者ハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處ス

四條中改正
ス其布達ハ後
ニ出

十四年八月二
十五日迄賀縣
本局付屬通知
ヲ以テ第四條
中(後備軍司令
官)ヲ後備軍
司令官ト訂正
ス其通知書ハ
後ニ出
十六年七月三
日滋賀縣甲第
七十三號布達
ヲ以テ第五條
ヲ改正ス其布
達ハ後ニ出

徵兵令ハ第九
條ニ出
徵兵事務條例
ハ第十條ニ出
十六年七月三
日滋賀縣甲第
七十三號布達
ヲ以テ第八條
中(後備軍司令
官)ヲ後備軍
司令官ト訂正
ス其通知書ハ
後ニ出

第二條 後備軍司令部ノ職員ハ之ヲ別テ司令官副官使府縣駐在官
及ビ書記トス而シテ卷末後備軍司令部職員配置表ニ記載スル如
ク各官各地ニ駐劄シ其管掌ノ事務ヲ整理ス

第三條 後備軍司令官ハ鎮臺司令官ニ隸シ後備軍副官以下ノ職員
ヲ管轄シ該師管內徵兵調査及ビ豫備軍後備軍ノ事務ヲ總理ス

第四條 後備軍副官ハ後備軍司令官ニ隸シ常ニ其職掌ヲ補助シ又
司令部會計ノ事務ヲ掌ル書記ハ記註書寫ノ事ヲ掌ル

第五條 後備軍使府縣駐在官ハ後備軍司令官ニ隸シ常ニ使府縣ニ
駐劄シ其使府縣內徵兵調査及ビ豫備軍後備軍ノ事務ヲ擔任ス後
備軍使府縣駐在書記ハ使府縣駐在官ニ屬シ配駐書寫ノ事ヲ掌ル
但一府縣ノ管地他ノ師管ニ跨リ府縣廳ノ在ラザル地ニ駐劄ス
ル後備軍府縣駐在書記ハ直ニ該地管轄ノ後備軍司令官ニ屬ス
ル者トス

第六條 總テ徵兵調査及ビ豫備軍後備軍ノ事務ハ地方人民ニ關ス
ルコト緊切ナルヲ以テ後備軍司令部官員ハ綿密ニ注意セザル可ラ
ズ之ガ爲メニ徵兵令ハ勿論其他諸兵條例規則等民間ニ貫徹スベ
キヲ主トシ又兼テ在郷兵ノ動作ヲ監視スベシ

第二章 徵兵調査及ビ入營

第七條 徵兵調査ニ係ル事務ノ條款ハ徵兵令及ビ徵兵事務事例ニ

詳カナルヲ以テ茲ニ之レヲ畧ス

第八條 後備軍司令官ハ毎年常備新兵入營ノ期ニ臨ミ鎮臺司令官

ヨリ領收スル所ノ徵兵諸名簿徵兵事務條例第百一十條ニ據ルヘシ其聯隊聯隊ヲ

隊又ハ中隊隊ニ在テハ大ニ送附スベシ又新兵入營ノ節ハ其入營施行ノ場

所ニ參列シ其事務ヲ取扱フベシ

但分營ノ地ニ在テハ後備軍副官ヲシテ參列セシムベシ其事務

ハ司令官ノ扱ト異ナルコトナシ

十六年七月三日
日滋賀縣甲第七十三號布達
ヲ以テ第九條
但書中(後備
軍副官)ヲ(府
縣駐在官)
ト改ム其布達
ハ後ニ出

第九條 新兵入營ノ途中或ハ滯在中番號割符ヲ損傷遺失スルトキ
ハ後備軍司令官其本人ノ口書并ニ附添人ノ事由書ヲ密按シ事實
全ク過失ニ係ル者ハ更ニ割符ヲ附與シ入營セシム其趣ヲ鎮臺司
令官ニ具狀スベシ
但分營ノ地ニ在テハ後備軍副官該隊長ニ協議シ入營セシメ退
テ番號割符ヲ附與スベシ
第十條 新兵入營ノ期ニ臨ミ已ムヲ得サル事故ヲ生シ免役或ハ一
時入營猶豫等出願ノ者アルキハ後備軍司令官其事實ヲ密按シ鎮
臺司令官ニ具狀スベシ
第十二條 新兵入營ノ期ニ臨ミ疾病或ハ犯罪等已ムヲ得ザル事故
ニテ入營猶豫ノ者十月一日ニ至ルモ事故猶止マザル者ハ後備軍
司令官其名簿ヲ製シ各自姓名ノ頭ニ事由ヲ摘載シ鎮臺司令官ニ
差出スベシ

十六年七月三日
日滋賀縣甲第七十三號布達
ヲ以テ第十二
條以下各條中
ニ散見スル使
ノ字ヲ削除ス
其布達ハ後ニ
出

十六年七月三日
日滋賀縣甲第七十三號布達
ヲ以テ第十三條
中改正其布達
ハ後ニ出

第十三條 常備缺員ヲ補フ爲メ補充兵ヲ要スルキハ徵兵事務條例
第百條ニ掲ル如ク步兵ニ在テハ師管内他人兵種ハ軍管内使府縣
ヲ平均シ補充番號順序ニ入營セシムヘキヲ以テ鎮臺所在ノ師管
後備軍司令官ハ使府縣毎ニ同年常備ノ最モ高キ番號ヲ調ヘ同使
府縣補充番號ノ最モ低キ者ヨリ順序ニ繼キ昇リ其人員ヲ每使府
縣ニ區別シ之ヲ鎮臺ニ差出スヘシ又該兵入營ノ上各師管後備軍
司令官ハ各自番號割符ノ裏面ニ其事由ヲ記註シ更ニ本人ニ附與
スヘシ
但補充兵服役中常備入營ヲ命セラレサル者ハ滿期ノ時番號割
符ノ裏面ニ第一豫備徵兵編入ノ事ヲ記註スヘシ
第十三條 常備軍滿期ノ者退營歸郷ノ節ハ各師管後備軍司令官成
規ノ如ク番號割符ノ裏面ニ事由ヲ記註シ之ヲ各兵ニ附與スヘシ
又各兵ハ歸着ノ日ヨリ三日以内ニ郡區長戸長ノ證印ヲ以テ使府

十六年七月三日
日滋賀縣甲第
七十三號布達
ヲ以テ第十四
條中改正其
達ハ後ニ出

召集條例ハ十
九年十月九日
陸軍省令甲第
三十九號ヲ以
テ全部改正其
省令ハ第六十
八條ニ出
編制條例ハ十
九年十二月廿
八日陸軍省令
第十四號ヲ以
テ二十年四月
月二十日ヨリ
廢ス故ニ略ス
十六年七月三
日滋賀縣甲第
七十三號布達
ヲ以テ第十八
條中改正其布
達ハ後ニ出

縣駐在官へ届出テシムヘシ
但分營ノ地ニ在テハ其聯隊ヲ爲サハル小隊ニ在ニ於テ各自
ノ番號割符ヲ取纏メ後備軍司令官ニ送達シ同官成規ノ如ク番
號割符ノ裏面ヘ事由ヲ記註シ本人所管ノ後備軍使府縣駐在官
ヲ以テ之ヲ附與セシム
第十四條 輻重輸卒郷里ニ在テ常備服役滿期豫備軍編入ノ者ハ後
備軍使府縣駐在官各自ノ番號割符ヲ取纏メ後備軍司令官ヘ差出
シ同官成規ノ如ク番號割符ノ裏面ヘ事由ヲ記註シ後備軍使府
縣駐在官ヲ以テ更ニ之ヲ本人ヘ送達セシム
第十五條 甲鎮臺管下ニ於テ徵集ニ應ニ常備軍滿期豫備軍編入ノ
節身元既ニ乙鎮臺管下ヘ轉籍又ハ全戸寄留スル者ハ甲鎮臺ニ於
テ該臺所管ノ者同様之ヲ處分シ乙鎮臺ヘ兵籍ヲ送致ス
但騎兵ニ在テハ東京鎮臺ノミニ之ヲ置クヲ以テ他鎮臺管下ヘ

轉籍又ハ全戸寄留スルモ其兵籍ヲ送ラサル者トス故ニ復習又
ハ非常召集其他身上ニ係ル願届等ノ取扱ハ第二十七條及ヒ第
二十八條ノ例ニ準ズ
第三章 豫備兵及ヒ後備兵
第十六條 豫備兵後備兵ノ召集并ニ編制ニ係ル者ハ召集條例及ヒ
編制條例ニ揚示スルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス
第十七條 豫備兵及ヒ後備兵服役中ハ軍事ニ係ル一切ノ命令布達
等ヲ服膺スヘキハ勿論召集ノ命アルキハ其命令到達ノ時ヨリ二
十四時間以内ニ發程ヲ指示セラレタル場所ニ出頭スヘキ様居常
其準備ヲ爲シ置クヘキモノトス
第十八條 豫備兵及ヒ後備兵服役中ハ疾病傷痕等ニテ兵役ニ堪ヘ
サル者又ハ軍律徒以上或ハ常律懲役一年以上及ヒ國事犯禁獄一
年以上實決ノ刑ニ處セラレタル者ヲ除ク外假令ヒ戸主嗣子養

十四年九月一日
滋賀縣甲第
百三十八號達
ヲ以テ第十九
條中改正其布
達ハ後ニ出
十六年七月三
日滋賀縣甲第
百三十八號達
ヲ以テ第十九
條中改正其布
達ハ後ニ出

十六年七月三
日滋賀縣甲第
百三十八號達
ヲ以テ第二十
條中改正其布
達ハ後ニ出

十六年七月三
日滋賀縣甲第
百三十八號達
ヲ以テ第二十
條中改正其布
達ハ後ニ出

十七年七月三
日滋賀縣甲第
百三十八號達
ヲ以テ第二十
條中改正其布
達ハ後ニ出

十六年七月三
日滋賀縣甲第
百三十八號達
ヲ以テ第二十
條中改正其布
達ハ後ニ出

子嗣分家又ハ相續人トナル者ト雖モ其服役ヲ免除セズ

第十九條 前條疾病傷痍等ニテ兵役ニ堪ヘサル徵候アル者ハ陸軍

醫官陸軍醫官不在ノ地ハノ診斷書ヲ添ヘ郡區長戶長與書證印ノ

上使府縣駐在官ヲ經テ後備軍司令官ヘ願出テ同官ヨリ之ヲ鎮臺

ニ具狀スヘシ鎮臺ニ於テハ鎮臺病院東京ハ陸軍本病院醫官ニ於テ其診斷

書ニ由リ兵役ニ堪ヘサルヤ否ヲ判定セシメ然ル後之ヲ處分スヘシ

但時宜ニ由リ後備軍使府縣駐在官ヲシテ其家ニ就キ之ヲ檢査

セシムヘシ

第二十條 第十八條ノ常律懲役一年以上及ヒ國事犯禁獄一年以上

實決ノ刑ニ處セラレタル者ハ刑名宣告書ノ寫ヲ添ヘ郡區長戶長

與書證印ノ上使府縣駐在官ヲ經テ後備軍司令官ヘ願出テ同官ヨ

リ之ヲ鎮臺ニ差出スヘシ

第二十一條 豫備兵及ビ後備兵服役中平時ニ在テ旅行或ハ某地ニ

單身寄留セント欲スル者一軍管内ニ在テハ召集ニ支ヘサル爲メ

其往先ヲ詳カニシ郡區長戶長ノ與書證印ヲ以テ後備軍使府縣駐

在官ヘ願出テ同官ノ之ヲ記シ置キ召集ノ節ハ速カニ歸家セシメ

又軍管外ニ係ルキハ郡區長戶長ノ與書證印ヲ以テ使府縣駐在官

ヲ經テ後備軍司令官ヘ願出ヘシ尤駐在官ハ非常ハ勿論點呼復習

ニ妨害ナキヤ否ヲ審接シ其意見書ヲ添ヘ之ヲ後備軍司令官ヘ差

出スヘキモノトス

但軍管内外ヲ問ハズ旅行或ハ單身寄留中召集ノ命アルキハ直

ニ之ヲ通報スヘキ親族ノ者ヲ定メ置キ其姓名住所ヲ記シ願書

或ハ願書ト共ニ差出サシムヘシ

第二十二條 豫備兵及ビ後備兵服役中一軍管内ニ轉籍或ハ全戸寄

留セント欲スル者ハ左ノ第一書式ノ如ク使府縣駐在官ヘ願出テ

己ニ轉籍或ハ全戸寄留スルノ後三日以内ニ其轉籍地ノ使府縣駐

在官へ届出テシメ又他軍官へ轉籍或ハ全戸寄留セシム欲スル者ハ左ノ第二書式ノ如ク後備軍使府縣駐在官ヲ經テ後備軍司令官へ願出ヘシ

第一書式

私儀此度何使(府)(縣)何郡(區)何町(村)何番地へ轉籍全戸寄留致候間此段御届申候也

使(府)(縣)郡(區)町(村)番地

年月日

明治何年徵兵兵種番號
後備軍(後備軍)何等卒

姓名印

後備軍何使(府)(縣)駐在官

官 姓名 殿

前書之通相違無之候也

使(府)(縣)郡(區)町(村)戸長

姓名印

使(府)(縣)郡(區)長

姓名印

第二書式

私儀此度第何軍管々下何使(府)(縣)何郡(區)何町(村)何番地へ轉籍全戸寄留仕候間兵籍御送リ相成度此段奉願候也

使(府)(縣)郡(區)町(村)番地

年月日

明治何年徵兵兵種番號
後備軍(後備軍)何等卒

姓名印

第何師管後備軍司令官

官 姓名 殿

前書之通相違無之候也

使(府)(縣)郡(區)町(村)戸長

姓名印

使(府)(縣)郡(區)長

後備軍使府(縣)駐在官
姓名 印
官 姓名 印

第二十三條 前條轉籍或ハ全戸寄留ノ者一軍管内ニ在ルキハ各師
管後備軍司令官其兵籍ヲ交互受送シ又他軍管ニ在ルキハ後備軍
司令官鎮茲司令官ノ許可ヲ得テ之ヲ施行スヘシ

第二十四條 後備兵及ヒ後備兵服役中結婚セシト欲スル者ハ左ノ
第一書式ニ準シ其願書ニ郡區長戸長與書證印ノ上後備軍使府縣
駐在官ヲ經テ後備軍司令官ヘ願出テ同官ヨリ鎮臺ヘ差出シ許可
ヲ乞フヘシ又既ニ婚姻濟ノ上ハ左ノ第二書式ニ準シ前同様ノ手
續ヲ以テ後備軍使府縣駐在官ヘ願出テ同管ヨリ其筋ヲ經テ鎮臺
ヘ報告スヘシ
但離婚若シクハ其婦ノ死去スルキハ速カニ後備軍使府縣駐在

十四年九月一
日滋賀縣中第
百三十八號布
達ヲ以テ第二
十四條改正其
布達ハ後ニ出

同管原本ノマ
、恐クハ同官
ノ誤ナラン

官ヘ願出テ同官ヨリ其筋ヲ經テ鎮臺ヘ報告スヘシ

第一書式

結婚願

津(府)縣(郡)區(町)村(番)地

何族平民何某何女

某

何年何月何日生

右之者儀雙方熟談ノ上私妻ニ縁組仕度此段奉願候也

使(府)縣(郡)區(町)村(番)地

年月日

明治何年 徵兵兵種番號
豫備軍(後備軍)何等卒

姓名 印

第何師管後備軍司令官

官 姓名 殿

前書之通相違無之候也

兵事 在船兵

使(府)(縣)(郡)(區)(町)(村)戶長

姓名印

使(府)(縣)(郡)(區)長

姓名印

第二書式

婚姻御届

使(府)(縣)(郡)(區)(町)(村)番地

何族(平民)何某何女

某

何年何月何日生

右者何年何月何日願濟ニテ何月何日婚姻相整候間此段御届申候也

使(府)(縣)(郡)(區)(町)(村)番地

年月日 明治何年徵兵兵種番號 姓名印

後備軍何處府(縣)駐在官

官姓名殿

前書之通相違無之候也

使(府)(縣)(郡)(區)(町)(村)長

姓名印

使(府)(縣)(郡)(區)長

姓名印

第二十五條 後備兵及後備兵服役中諸官廳ニ奉任スルハ妨ナシ然レモ戰時ハ勿論點呼復習或ハ非常召集ノ時ハ速カニ其命令ニ應スヘキモトス故ニ之ヲ登用セント欲スルハ其官廳ヨリ戰時ハ勿論點呼復習又ハ非常召集ノ時ハ速ニ其命令ニ應ビシムヘキ後證ヲ以テ本人所管ノ鎮臺ニ照會スベシ

十六年七月三日
日滋賀縣甲第
七十三號布達
ヲ以テ第二十
五條但書ヲ改
正ス其布達ハ
後ニ出
十六年七月三
日滋賀縣甲第
七十三號布達
ヲ以テ第二十
六條中改正其
布達ハ後ニ出
十七年七月十
九日太政官第
十八號布達ヲ
以テ徵兵事務
條例全部改定
其布達ハ第十
條ニ出

但、鎮臺ニ於テ官廳ノ照會ニ應ズルトキハ其趣ヲ後備軍司令官
ニ達スベシ
第二十六條 豫備兵及び後備兵服役中戸主嗣子養子嗣分家又ハ相
續人トナル者或ハ死没犯罪脱走等身上ノ異動アルトキハ郡區長
戸長與書證印ノ上其戸主ホ人戸主ナハ親族ヨリ速ニ後備軍使府縣駐在
官ニ届出テ同官ヨリ後備軍司令官ニ報告スベシ
但、養子或ハ入夫等ノ者ハ第二十四條ノ例ニ準ス
第二十七條 徵兵事務條例第百二條ニ由リ甲鎮臺管下ヨリ乙鎮臺
管下ニ補缺ノ者ニシテ豫備兵及び後備兵服役在郷中ハ原籍地方
即チ甲鎮臺ノ所轄ニ屬スルモノトス故ニ復習又ハ非常召集ノ時
ハ乙鎮臺ヨリ之ヲ甲鎮臺ニ通牒シ甲鎮臺ニ於テハ本人ニ達シ乙
鎮臺ノ召集ニ應ジムベシ
但、後備兵點呼ハ原籍地方ノ召集ニ應ズベキモノトス

十六年七月三
日滋賀縣甲第
七十三號布達
ヲ以テ第二十
八條中改正其
布達ハ後ニ出
十六年七月三
日滋賀縣甲第
七十三號布達
ヲ以テ第二十
九條中改正其
布達ハ後ニ出

第二十八條 前條補缺ノ豫備兵及び後備兵ノ身上ニ係ル願届ハ原
籍地方ノ後備軍使府縣駐在官ニ差出シ同官ヨリ其筋ヲ經テ甲鎮
臺ニ差出スベシ甲鎮臺ニ於テハ該臺所轄ノ者同様處分シ然ル後
之ヲ乙鎮臺ニ報告スベシ
第二十九條 豫備軍服役滿期後備軍編入ノ者ハ後備軍使府縣駐在
官各自ノ番號割符ヲ取纏メ即管後備軍司令官ニ差出シ同官ハ成
規ノ如ク番號割符ノ裏面ニ事由ヲ記註シ後備軍使府縣駐在官ニ
シテ更ニ之レヲ本人ニ送達セシムベシ
第三十條 後備軍服役滿期ノ者ハ別ニ命ナクシテ國民軍ニ編入セ
ラレタル者トス然レモ更ニ番號割符ノ記註ヲ要セズ

第四章 後備兵點呼

第三十一條 後備兵ハ每歲一度便宜ノ地ニ於テ其技藝ヲ復習セシ
ムルノ成規ヲリト雖モ現今兵員未ダ完備セザルヲ以テ使府縣内

十九年十二月
二十八日陸軍
省令第四十五
號ヲ以テ第四
章全文ヲ削除
ス其布達ハ後

三出

十六年七月三日
滋賀縣甲第
七十三號布達
ヲ以テ第三十
二條中改正
十三條中改正
其布達ハ後ニ
出

十六年七月三日
滋賀縣甲第
七十三號布達
ヲ以テ第三十
四條中改正
其布達ハ後ニ
出

集合便利ノ地ニ於テ後備兵點呼ヲ施行シ戰時或ハ非常ノ時ニ當
 リ之ヲ召集スルニ容易ナラシム
 第三十二條 後備兵點呼ハ每歲一度使府縣駐在官管内ノ郡區ヲ巡
 行シ之ヲ行フチ例トス而シテ出會ノ地ハ後備兵ノ概ネ一日間ニ
 往復ヲ爲シ得ベキ里程内ノ地ニ之ヲ設クベシ
 第三十三條 後備兵點呼ハ後備軍司令官鎮臺司令官ノ命ヲ受テ召
 集ノ人員ヲ量リ出會ノ地及ビ時日ヲ定メ之ヲ後備軍使府縣駐在
 官ヘ達スベシ
 但本文召集ノ人員場所及ビ時日等ハ鎮臺ヨリ陸軍省ヘ申告シ
 又之ヲ管下使府縣ヘ通牒スヘキモノトス
 第三十四條 點呼召集ノ期ニ至レバ後備軍使府縣駐在官ハ左式ノ
 書翰ヲ作り之ヲ郡區長ヘ送達スベシ
 郡區町村番地
 後備軍
 書式

十四年九月一日
滋賀縣甲第
百三十八號布
達ヲ以テ何月
ノ二字ヲ削ル
其布達ハ後ニ
出

何年何月徵兵兵種番號	何	等	卒	姓	名
同	同	同	同	同	同
右人員今度某地ニ於テ致點呼候條來ル月日第何時同所へ出會候 様御取計有之度候也	同	同	同	同	同
年月日	官	姓	名	印	
何郡(區)長	姓	名	殿		
後備軍何使府(縣)駐在官	官	姓	名	印	
第三十五條 點呼ニ出會スル所ノ後備兵ノ旅費等ハ官ヨリ之ヲ給 与サルベシ					

兵事 在籍兵

十六年七月三日
日賀縣甲第
七十三號布達
ヲ以テ第三
七條中改正其
布達ハ後ニ出

十六年七月三日
日賀縣甲第
七十三號布達
ヲ以テ第三
七條中改正其
布達ハ後ニ出

七十三號布達
ヲ以テ第三
九條中及第四
十條中改正
ス其布達ハ後
ニ出

府縣駐在官原
本ノマ、恐ク
ハ使府縣駐在
官ノ誤ナラン
十六年七月三
日滋賀縣甲第
七十三號布達
ヲ以テ第四十
一條中改正其
布達ハ後ニ出

第三十六條 點呼ニ出會スル所ノ後備兵ハ各自適宜ノ服ヲ着用スベキモノトス

第三十七條 後備兵點呼召集ノ期ニ臨ミ疾病或ハ己ヲ得サル事故アリ期限ノ如ク出會シ難キ者ハ其實ヲ詳記シ病氣ノ者ハ最寄地方醫師ノ診斷書ヲ添ヘ戸長ノ與書證印ヲ以テ後備軍使府縣駐在官ヘ届出テ同官ヨリ之ヲ後備軍司令官ヘ報告スベシ

但點呼召集ノ時疾病或ハ犯罪等己ムヲ得ザル事故ニテ召集ニ應ゼル者ハ各自手帖ヲ本文届書ト共ニ後備軍使府縣駐在官ヘ差出サシムベシ

第三十八條 前條疾病或ハ犯罪等己ムヲ得ザル事故ニテ召集ニ應ゼザル者其實届書ト相違セシ者ハ事由ヲ告ゲズシテ召集ノ命ニ應ゼザル者トシ之ヲ處分スベシ

第三十九條 後備兵點呼ノ地ヘ到着スルキハ各自手帖ニ名刺ヲ添

後備軍使府縣駐在官ヘ届出デシムベシ

第四十條 後備兵點呼ヲ爲スルハ後備軍使府縣駐在官ハ便宜ノ場所ヲ撰ビ後備兵ヲ各兵種ニ區別シ點呼名簿ノ順序ヲ以テ一線ニ整列セシメ右翼ヨリ各自ノ姓名ヲ呼ビ終テ圖列ヲ作り服役上ノ規則ヲ調査シ又ハ軍令定則等ヲ告示スベシ

第四十一條 前條點呼施行ノ後後備軍使府縣駐在官ハ後備兵ヲ在ノ三種ニ類別シ又疾病傷痕等ニテ兵役ニ堪ヘサル者ノ實查ヲ爲スベシ

第一項 疾病或ハ事故ナクシテ直ニ召集ニ應ジ得ル者

第二項 諸官衙ニ奉仕シ或ハ寄留旅行等ニテ直ニ召集ニ應ジ難キ者

第三項 疾病傷痕或ハ身体虛弱等ニテ戰役ニ堪ヘズト雖モ守衛等ニ服務スルヲ得ル者

十六年七月三日
日滋賀縣甲第
七十三號布達
ヲ以テ第四十
三條中改正其
布達ハ後ニ出

十四年九月一
日滋賀縣甲第
百三十八號布
達ヲ以テ第四
十四條中改正
其布達ハ後ニ
出
十六年七月三
日滋賀縣甲第

七十三號布達
ヲ以テ第四十
四條中改正追
加其布達ハ後
ニ出
十九年十二月
二十八日陸軍
省令第四十五
號ヲ以テ第五
章ヲ第四十五
條ヲ第三十一
條ニ改メ以下
各條順次繰上
其省令ハ後ニ
出

第四十二條 後備兵點呼終ルノ後點呼出會ノ場所及ビ年月日其他
 身上ノ異動アル者ハ其異動ヲ各自ノ手帖ニ記註シ本人ハ返附ス
 ベシ

第四十三條 各所ノ點呼全ク終レハ後備軍使府縣駐在官ハ點呼ノ
 實況及ビ第四十一條ノ諸項ニ當ル者ヲ一使府縣ニ取纏メ後備軍
 司令官ヘ報告シ同官ハ之ヲ一師管ニ取纏メ鎮臺司令官ヘ差出ス
 ベシ

但本文ノ報告ハ鎮臺ニ於テ一軍營ニ取纏メ之ヲ陸軍省ヘ差出
 スベシ

第四十四條 後備兵點呼ノ時ニ於テ後備軍使府縣駐在官助手ヲ要
 スルハ豫備軍後備軍ノ下士又ハ上等卒ノ中適任ノ者ヲ撰ビ後
 備軍司令官ニ具狀スベシ

但駐在官ノ助手ハ點呼ノ地毎ニ之ヲ採用シ或ハ一使府縣ヲ通

第五章 名簿

第四十五條 鎮臺所在ノ師管後備軍司令部ハ軍管內其他ノ後備軍
 司令部ハ師管內軍籍ヲ帶ヒテ地方ニ在ル軍人ノ名簿ヲ備ヘ置キ
 死沒轉居處刑失踪其他身上ノ異動アル毎ニ添削ヲ加ヘ常ニ明瞭
 ニシテ有事ノ日之ヲ召集スルニ淹滞ナカラシム因テ其帳簿ヲ分
 ツテ左ノ如シ

鎮臺所在師管後備軍司令部ニ備フ可キ名簿

豫備軍將校名簿 後備軍將校名簿 豫備軍下士人員簿 後備軍下
 士人員簿 常備兵名簿 常備歸休兵人員簿 補充兵人員簿 豫備
 兵人員簿 後備兵人員簿 第一豫備徵兵人員簿

各師管後備軍司令部ニ備フ可キ名簿

豫備軍將校人員簿 後備軍將校人員簿 豫備軍下士名簿 後備軍

十四年九月一日
日滋賀縣甲第
百三十八號布
達ヲ以テ第四
十五條中へ一
項追加其布達
ハ後ニ出ツ

下士名簿 常備兵明細名簿 常備歸休兵名簿 補充兵明細名簿
豫備兵名簿 後備兵名簿 第一豫備徵兵名簿
第四十六條 豫備軍及ヒ後備軍將校名簿ハ從前ノ現役將校名簿ヲ
用ヒ而シテ準士官以上并ニ會計軍醫馬醫軍樂各部同等官ヲ兵種
及ヒ各部ニ分テ之ヲ集成スヘシ
第四十七條 豫備軍後備軍下士常備歸休兵補充兵豫備兵後備兵及
ヒ第一豫備徵兵人員簿ハ左式ニ準シ兵種及ヒ會計軍醫馬醫軍樂
各部ヲ分テ之ヲ調製スヘシ

十六年七月三
日滋賀縣甲第
七十三號布達
ヲ以テ第四十
七條書式中
追加其布達ハ
後ニ出
ニ出
△原本朱字

書式
步(騎)(砲)(工)(輜重)兵(會計)(軍醫)(馬醫)(軍樂)(輜重)卒(之部)
使府縣 籤番號 住 所 隊 號 官名(等級) 姓 名
△何府 △明治何年 △何區何町 △第何聯隊 △曹長(二等卒) △何

使府縣	籤番號	住 所	隊 號	官名(等級)	姓 名
△何府	△明治何年	△何區何町	△第何聯隊	△曹長(二等卒)	△何

第四十八條 常備兵名簿ハ常備兵卒明細名簿ニ基キ名簿紙ハ常備
兵卒ヲ騰記シ又其兵種ヲ分テ之ヲ調製スヘシ
第四十九條 豫備軍及ヒ後備軍將校人員簿ハ左式ニ準シ兵種及ヒ
會計軍醫馬醫軍樂各部ヲ分テ之ヲ調製スヘシ

十六年七月三
日滋賀縣甲第
七十三號布達
ヲ以テ第四十
九條中及同書
式中削除其布
達ハ後ニ出
△原本朱字

書式
步(騎)(砲)(工)(輜重)兵(會計)(軍醫)(馬醫)(軍樂)之部
使府縣 住 所 官 名 姓 名
△何 府 △何區何町何番地 △步兵大尉 △何 某

使府縣	住 所	官 名	姓 名
△何 府	△何區何町何番地	△步兵大尉	△何 某

兵事 在郷兵

第五十一條 常備兵明細名簿并ニ補充兵明細名簿ハ別ニ之ヲ調製セス

第五十二條 常備歸休兵名簿ハ常備兵名簿ニ基キ徵兵令第二條第一項ニ當ル者ハ第一書式又徵兵事務條例第一百十八條第三項ニ當ル者ハ第二書式ニ準シ其兵種ヲ區別シ之ヲ調製スヘシ

第一書式

常備歸休兵(騎)(砲)(工)(輜重)兵之部		歸休時日	使府縣	籤番號	住所	隊號	等級	姓	名
△年月日	△何府	△明治何年 第何番	△何區何町 △第何聯隊	△何等卒	△何				某

第二書式

除隊歸休歩(騎)(砲)(工)(輜重)兵之部

十六年七月三日
日滋賀縣甲第
七十三號布達
ヲ以テ第五十
二條中改正其
布達ハ後ニ出

△原本朱字

十七年七月十日
九日太政官第
十八號布達ヲ
以テ徵兵事務
條例全部改定
其布達ハ第十
條ニ出
十九年十二月
二十八日陸軍
省令第四十五
號ヲ以テ第五
十四條ノ次ニ
一條追加其省
令ハ後ニ出

歸休時日	使府縣	籤番號	住所	等級	姓	名

第五十三條 豫備兵名簿及ヒ後備兵名簿ハ別ニ之ヲ調製セス常備軍滿期豫備軍ハ編入又ハ豫備軍滿期後備軍ハ編入ノ後從前ノ常備兵名簿及ヒ豫備兵名簿ヲ用ユヘシ
但常備輜重輪卒ニシテ入營セス直ニ豫備軍編入ノ者ハ常備兵明細名簿ヲ用ユヘシ

第五十四條 第一豫備徵兵名簿ハ別ニ之ヲ調製セス徵兵事務條例第一百三條但書ノ名簿及ヒ前年ノ補充兵名簿ヲ用ユヘシ

後備軍司令部職員等級表 (十五年六月十三日滋賀縣甲第百七號布達ヲ以テ表中追加十六年七月三日)

兵事 在郷兵

滋賀縣甲第七拾三號布達ヲ以テ全部
改正ニ付略ス其布達ハ共ニ後三出
各軍管後備軍司令部職員配置表(三十六年七月三日滋賀縣甲第七拾
三號布達ヲ以テ全部改正ニ付略
後共布達)

○明治十四年八月二十五日滋賀縣本局付屬通知

本年甲第四十六號布達後備軍司令部條例第四條中(後備司令官)ト

アル(後備軍司令官)ノ誤ニ付訂正候也

○明治十四年九月一日滋賀縣甲第三百三拾八條布達

本年甲第四十六號ヲ以テ及布達後備軍司令部條例中左ノ通改正
候旨其筋ヨリ達相成候條此旨布達候事

後備軍司令部條例改正(明治十四年八月二十三日陸軍)

第十九條 五行目「鎮臺病院東京、陸軍本病院」ヲ「各地陸軍病院」トス

第二十四條 豫備兵及上後備兵服役中結婚セシムル者ハ陸軍

本年甲第四十六號布達
本年甲第四十六號布達
本年甲第四十六號布達
本年甲第四十六號布達
本年甲第四十六號布達
本年甲第四十六號布達
本年甲第四十六號布達
本年甲第四十六號布達
本年甲第四十六號布達
本年甲第四十六號布達

陸軍武官結婚條例第九十

一條二出

十六年七月三日
日滋賀縣甲第七十三號布達
ヲ以テ第二十四條中改正追加其布達ハ後三出

武官結婚條例第四條及第十二條ニ據リ其願書ニ身元證書ヲ添ヘ郡區長戸長證印ノ上後備軍使府縣駐在官ヘ差出シ同官與書證印ノ上後備軍司令官ヲ經テ鎮臺司令官ヘ差出シ許可ヲ請フヘシ又既ニ婚姻濟ノ上ハ同條例第十條ノ本文ニ據リ前同様ノ手續ヲ以テ届出ベシ

但離婚若クハ其婦ノ死去スルトキハ速カニ後備軍使府縣駐在官ヘ届出テ同官ヨリ其筋ヲ經テ鎮臺ヘ報告スヘシ

第三十四條 書式二行目「何月」ノ二字ヲ削ル

第四十四條 四行目「スヘシ」ヲ「シ許可ヲ請フヘキモノトス」トス

第四十五條 各師管後備軍司令部ニ備フヘキ名簿中第一豫備徵兵

名簿ノ次ニ「籤簿」ノ一項ヲ加フ

第四十七條 書式「官名(等級)ノ區畫中朱書「曹長」ノ上ニ「歩兵」ノ二字

ヲ加フ

兵事 在籍兵

○明治十五年六月十三日滋賀縣甲第七號布達
昨明治十四年本縣甲第四十六號ヲ以テ及布達候後備軍司令部條例
中該部職員等級表欄外ニ備考ノ一書ヲ設ケ左ノ通逕加候旨其筋ヨ
リ達相成候條此旨布達候事

○後備軍司令部職員等級表備考(明治十五年六月九日陸軍省達
甲第拾三號達)
本表書記ノ區畫中官等ニ由リ甲曹長乙軍曹長軍曹ヲ區別スト雖兀再從以上

ノ者ヲ以テ之ニ充ツルカ故ニ時宜ニ依リ甲乙混用スルヲ得ヘシ

○明治十六年七月三日滋賀縣甲第七拾三號布達

明治十四年三月本縣甲第四拾六號ヲ以テ及布達候後備軍司令部條例
中今般別冊ノ通改正追加相成候旨其筋ヨリ達相成候條爲心得此旨
布達候事

〔別冊〕

(明治十六年六月二十六日陸軍省達
甲第拾貳號達ノ別冊)

後備軍司令部條例

後備軍司令部條例改正

第一條 而以下二十六字ヲ削ル

第三條 使府縣駐在官及ヒ「府縣駐在官郡區駐在官司司令部書記及

ヒ府縣駐在」トス

第三條 「後備軍副官以下」ヲ「部下」トス

第四條 「常ニ其職掌ヲ補助」又司令部會計ノ事務ヲ掌ル「ヲ」司令部

一般ノ庶務ニ任ス司令部トス

第五條 府縣駐在官ハ後備軍司令部官ニ懸シ常ニ府縣ニ駐劄シ其府

縣内徵兵調査及ヒ豫備軍後備軍ノ事務ヲ擔任ス府縣駐在書記ハ

府縣駐在官ニ屬シ記註書寫ノ事ヲ掌ル

十九年十二月
二十八日陸軍
省令第四十五
號ヲ以テ第五
條第一項ニ但
書ヲ加ヘ第二
項中改正其

郡區駐在官ハ府縣駐在官ニ隸シ常ニ郡區ニ駐劄シ其管轄郡區内
徴兵調査及ヒ豫備軍後備軍ノ事務ヲ擔任ス

第八條「節」下ニ「後備軍副官ヲシテ」ノ八字ヲ加ヘ「取扱」ヲ「取扱

ハシム」トス

同條但書 但分營ノ地ニ在テハ府縣駐在官ヲシテ參列セシメ其事

務ヲ取扱ハシムベシ

第九條但書「後備軍副官」ヲ「府縣駐在官」トス

第十三條「郡區長戸長」ヲ「戸長ノ與書」トシ「使」ヲ「郡區駐在官」ニ屬

出シ「同官」ヨリ之ヲ「出」テシムヘシ「出」トス

同條但書「本人所管ノ後備軍使府縣駐在官」ヲシテ之ヲ附與セシム

「府縣駐在官及ヒ郡區駐在官」ヲ經テ之ヲ本人ニ附與スヘ

シトス

第十四條「二行目」後備軍使府縣「ヲ」郡區」トス（初行二行目）
（ニ當ル）

同 條 「三行目」纏メ」ノ下ニ「府縣駐在官」ヲ經テ」ノ八字ヲ加フ（二行

目ニ當

同 條 「五行目」ヨリ」後備軍使府縣駐在官」ヲ更ニ之ヲ本人

ニ送達セシム」ヲ「府縣駐在官及ヒ郡區駐在官」ヲ經テ之ヲ本

人ニ附與ス」トス（三行目四行目ニ當ル）

第十五條 裏二行目「スヘシ」ヲ「寄留地ニ於テ徵集ニ應シ常備軍滿

期豫備軍ニ編入ノ節原籍地ニ歸郷スル者亦同様處分シ原

籍所管ノ鎮臺ニ兵籍ヲ送致スヘシ」トス（三行目ニ當ル）

同條但書「寄留」ノ下ニ「シ或ハ寄留地ニ於テ徵集ニ應シ原籍地ニ歸

郷」ヲ三十字ヲ加フ

第十八條「軍律徒以上或ハ常律懲役一年以上及ヒ國事犯禁獄一年

以上實決」ヲ「重罪」トス

第十九條「郡區長戸長與書證印ノ上使」ヲ「戸長ノ與書證印」ヲ以テ郡

區駐在官及ヒトス

同條但書「後備軍使府縣」ヲ「郡區」トス

第二十條「第十八條ノ常律懲役一年以上及ヒ國事犯禁獄一年以上

實決」ヲ「地方裁判所ニ於テ重罪輕罪」トシ「郡區長戸長與書證

印ノ上使」ヲ「戸長ノ與書證印ヲ以テ其戸主本人戸主ヲヨリハ親族」ヨリ

郡區駐在官及ヒトス

第二十一條 豫備兵及ヒ後備兵服役中平時ニ在テ旅行或ハ某地ニ

單身寄留セシト欲スル者一軍管内ニ在テハ召集ニ支ヘサル爲メ

其往先ヲ詳カニシ戸長ノ與書證印ヲ以テ郡區駐在官ニ届出シメ

同官ハ之ヲ府縣駐在官ニ届出ヘシ又他軍管ニ係ルキハ戸長ノ與

書證印ヲ以テ郡區駐在官及ヒ府縣駐在官ヲ經テ後備軍司令官ニ

届出シムヘシ尤府縣駐在官ハ非常召集又ハ復習點呼等ニ妨害ナ

キヤ否ヲ密察シ其願書ニ意見書ヲ添ヘ之ヲ後備軍司令官ニ差出

シ且軍管内外ヲ問ハズ旅行或ハ單身寄留中召集ノ命アルキハ直
ニ之ヲ通報スヘキ親族ノ者ヲ定メ置キ其姓名住所ヲ記シ願書或
ハ届書ト共ニ差出サシムヘシ

但外國ニ旅行又ハ滞在セント欲シ本文ノ手續ヲ以テ願出ルキ

ハ後備軍司令官ヨリ之ヲ鎮臺司令官ニ具狀シ許可ヲ請フヘシ

尤其旅行滞在中ハ復習及ヒ點呼ヲ免ス

第二十二條 豫備兵及ヒ後備軍服役中一軍管内ニ轉籍或ハ全戸寄

留セント欲スル者ハ左ノ第一書式ノ如ク郡區駐在官ニ届出シメ

同官ヨリ之ヲ府縣駐在官ニ届出テ又他軍管ニ轉籍或ハ全戸寄留

セシト欲スル者ハ左ノ第二書式ノ如ク郡區駐在官及ヒ府縣駐在

官ヲ經テ後備軍司令官ニ届出シムヘシ

但轉籍或ハ寄留地着後三日以内ニ左ノ第一書式ノ例ニ準シ新

住地ノ郡區駐在官ニ届出シメ同官ヨリ之ヲ府縣駐在官ニ届出

第一書式

私儀此度何府(縣)何郡(區)何町(村)何番地へ轉籍全戸寄留致候間此段御届申候也

年月日

明治何年何月何日

姓

名

印

何府(縣)郡(區)駐在官官姓名殿

前書之通相違無之候也

府(縣)郡(區)町(村)戸長

姓

名

印

第二書式

私儀此度第何軍管々下何府(縣)何郡(區)何町(村)何番地へ轉籍全戸寄留仕候間兵籍御送り相成度此段奉願候也

三

府(縣)郡(區)町(村)番地

三十年月日

明治何年何月何日

姓

本第何師管後備軍司令官官姓名殿

前書之通相違無之候也

同

府(縣)郡(區)町(村)戸長

姓

名

印

同

府(縣)郡(區)駐在官官姓名

同

名

印

第二十四條 郡區長戸長證印ノ上後備軍使府縣駐在官戸長ノ證印ヲ以

同條但書但離婚若シハ其婦ノ死去スルキハ戸長ノ與書證印ヲ以

同條但書但離婚若シハ其婦ノ死去スルキハ戸長ノ與書證印ヲ以

同條但書但離婚若シハ其婦ノ死去スルキハ戸長ノ與書證印ヲ以

同條但書但離婚若シハ其婦ノ死去スルキハ戸長ノ與書證印ヲ以

鎮臺報告スヘシ

第二十五條 但書 但點呼々其官廳所在地方ノ召集ニ應セシムルモ

第二十六條 郡區長 戶長 與書証印ノ上ニ「戶長ノ與書証印ヲ以テ」ト

第二十八條 「後備軍使府縣」ヲ郡區駐在官ニ届出シ同官ヨリ之ヲ

第二十九條 「後備軍使府縣」ヲ郡區「トシ」師管「ヲ」府縣

駐在官ニ差出シ同官ヨリ之ヲ

同 條 四行目ヨリ 五行目ニ至ル

後備軍使府縣駐在官ニシテ更ニ之ヲ本

府縣駐在官ニ送達スル

本人ニ附與ス

第三十二條 「使府縣駐在官管内」ヲ郡區駐在官其管轄

第三十三條 「後備軍使府縣駐在官」ヲ府縣駐在官ニ達シ同官ヨリ郡

區駐在官

第三十四條 「後備軍使府縣」ヲ郡區トス

同條書式中 「後備軍使府縣」ヲ郡區駐在官ニシテ「府縣」郡區駐在官官姓名

第三十七條 「後備軍使府縣」ヲ郡區駐在官ニ届出テ同官ヨリ之ヲ後備軍司

同條但書 「後備軍使府縣」ヲ郡區トス

第三十九條 第四十條中 「後備軍使府縣」ヲ郡區トス

第四十二條 「後備軍使府縣」ヲ郡區トス

同條第二項 「應シ難キ者」ヲ「應スル」ヲ得サル者トス

第四十三條 「後備軍使府縣」ヲ郡區トシ「使府縣」ヲ郡區ニ取纏メ府

第四十四條 「後備軍使府縣」ヲ郡區トシ「府縣」トス

同條但書「一使府縣」各地方官
 第四十七條書式中「步(騎)砲(工)輜重兵(會計)軍醫(馬醫)軍樂(輜重輸卒)之部」二十二字ヲ削ル
 第四十九條「及七會計軍醫馬醫軍樂各部」ノ十二字ヲ削ル
 同條書式中「步(騎)砲(工)輜重兵(會計)軍醫(馬醫)軍樂之部」ノ十七字ヲ削ル
 第五十二條第一書式中「常備師休歩(騎)砲(工)輜重兵之部」ノ十三字ヲ削ル
 同條第二書式中「除隊歸休歩(騎)砲(工)輜重兵之部」ノ十三字ヲ削ル
 第十三條第三十一條第三十三條但書第四十七條書式第四十九條書式第五十二條書式中ニ散見スル所ノ「使府縣」ノ「使」ヲ削ル
 後備軍司令部職員等級表及ヒ各軍管後備軍司令部職員配置表別紙
 又通改
 駐在所位地並管轄區畫表別紙ノ追加

位地原本ノマ

紙別

後備軍司令部職員等級表

第 一 第		第 二 第		第 三 第		第 四 第	
司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官
副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官	副官
府(縣)駐在官	府(縣)駐在官	府(縣)駐在官	府(縣)駐在官	府(縣)駐在官	府(縣)駐在官	府(縣)駐在官	府(縣)駐在官
郡(區)駐在官	郡(區)駐在官	郡(區)駐在官	郡(區)駐在官	郡(區)駐在官	郡(區)駐在官	郡(區)駐在官	郡(區)駐在官
司令部書記	司令部書記	司令部書記	司令部書記	司令部書記	司令部書記	司令部書記	司令部書記
縣駐在書記	縣駐在書記	縣駐在書記	縣駐在書記	縣駐在書記	縣駐在書記	縣駐在書記	縣駐在書記
郡(區)駐在書記	郡(區)駐在書記	郡(區)駐在書記	郡(區)駐在書記	郡(區)駐在書記	郡(區)駐在書記	郡(區)駐在書記	郡(區)駐在書記
曹長	曹長	曹長	曹長	曹長	曹長	曹長	曹長
軍曹	軍曹	軍曹	軍曹	軍曹	軍曹	軍曹	軍曹
伍長	伍長	伍長	伍長	伍長	伍長	伍長	伍長

兵 在 兵

四百四十九

第 二		第 三		第 四	
五	第六	第七	第八	第九	第十
司令官	司令官	司令官	司令官	司令官	司令官
縣駐在官	副官	縣駐在官	副官	縣駐在官	副官
郡(區)駐在官	司令部書記	郡(區)駐在官	司令部書記	郡(區)駐在官	司令部書記
縣駐在書記	縣駐在書記	縣駐在書記	縣駐在書記	縣駐在書記	縣駐在書記

四百五十

第 五		第 六		考 備
十一	第十二	第十三	第十四	
司令官	司令官	司令官	司令官	本表軍曹伍長ノ區滿中府縣駐在書記及ヒ司令部書記ハ時宜ニ由リ曹長ヲ混 用スルヲ得ベシ
副官	副官	副官	副官	
縣駐在官	縣駐在官	縣駐在官	縣駐在官	
郡(區)駐在官	司令部書記	郡(區)駐在官	司令部書記	
縣駐在書記	縣駐在書記	縣駐在書記	縣駐在書記	
府(縣)駐在官	府(縣)駐在官	府(縣)駐在官	府(縣)駐在官	

兵專 在郷兵

四百九十一

後備軍司令部職員配置表

第 一										軍管	
第 二										師管	
第 三										職	
第 四										員	
第 司令官一	第 副官一	第 副官一	第 副官一	第 副官一	第 副官一	第 副官一	第 副官一	第 副官一	第 副官一	第 副官一	府 縣
朽木	下野	朽木	茨城	千葉	山梨	靜岡	埼玉	神奈川	東京		職
駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官		員
郡區駐在官一	郡區駐在官一	郡區駐在官一	郡區駐在官一	郡區駐在官一	郡區駐在官一	郡區駐在官一	郡區駐在官一	郡區駐在官一	郡區駐在官一		員
第 五										軍管	
第 六										師管	
第 七										職	
第 八										員	
第 司令官一	第 副官一	第 副官一	第 副官一	第 副官一	第 副官一	第 副官一	第 副官一	第 副官一	第 副官一	第 副官一	府 縣
丹波	丹波	丹波	丹波	丹波	丹波	丹波	丹波	丹波	丹波	丹波	職
駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	員
郡區駐在官一	郡區駐在官一	郡區駐在官一	郡區駐在官一	郡區駐在官一	郡區駐在官一	郡區駐在官一	郡區駐在官一	郡區駐在官一	郡區駐在官一	郡區駐在官一	員

兵事 在郷兵

第 一										
第 二										
第 三										
第 四										
第 司令官一	第 副官一	第 副官一	第 副官一	第 副官一	第 副官一	第 副官一	第 副官一	第 副官一	第 副官一	第 副官一
函館	山形	秋田	青森	岩手	陸前	陸前	陸前	陸前	陸前	陸前
駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官
郡區駐在官一	郡區駐在官一	郡區駐在官一	郡區駐在官一	郡區駐在官一	郡區駐在官一	郡區駐在官一	郡區駐在官一	郡區駐在官一	郡區駐在官一	郡區駐在官一
第 五										
第 六										
第 七										
第 八										
第 司令官一	第 副官一	第 副官一	第 副官一	第 副官一	第 副官一	第 副官一	第 副官一	第 副官一	第 副官一	第 副官一
熊本	熊本	熊本	熊本	熊本	熊本	熊本	熊本	熊本	熊本	熊本
駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官	駐在官
郡區駐在官一	郡區駐在官一	郡區駐在官一	郡區駐在官一	郡區駐在官一	郡區駐在官一	郡區駐在官一	郡區駐在官一	郡區駐在官一	郡區駐在官一	郡區駐在官一

考 備	第 三		第 六		第 七	
	副官一富	副官一富	副官一富	副官一富	副官一富	副官一富
一 第一第四第六第八第十第一十三師管ノ後備軍司令官副官及ヒ司令部書記ハ 鎮臺所在ノ地ニ第二第三第五第七第九第十第十二第十四師管ノ後備軍司令 官副官及ヒ司令部書記ハ營所所在ノ地ニ府縣駐在官及ヒ府縣駐在書記并ニ 郡區駐在官ハ各其駐在所ニ駐劄スルモノトス 一 函館縣駐在官ハ第五師管後備軍司令官ノ管轄ニ屬ス故ニ之ヲ第五師管ノ區 畫ニ載ス	書記三福	書記三福	書記三福	書記三福	書記三福	書記三福
	井	山	川	信	遠	愛
	郡區駐在官二	郡區駐在官二	郡區駐在官二	郡區駐在官二	郡區駐在官三	郡區駐在官三
	第 六		第 十		第 十	
	四書記三	十副官一	第司令官一	三書記四	副官一	副官一
	賀	崎	岡	大	崎	鹿
	郡區駐在官二	郡區駐在官二	郡區駐在官三	郡區駐在官二	郡區駐在官二	郡區駐在官三

四百五十四

軍管師管		駐在所位置並管轄區畫表	
府縣駐在所	郡區駐在所	府縣	國名
第 一	第 一	東京府	郡 區 名
東 京	麹町區	武藏	本所區 深川區
芝 區	芝區 麻布區 赤坂區 四ッ谷區 牛込區	武藏	小石川區 荏原區 東多摩區 南豊島區
淺草區	淺草區 下名區 本所區 北豊島區 南豊島區	武藏	南豊島區 久良岐 檜樹 梶原 西多摩
横 濱	横濱區	相模	横濱區 久良岐 檜樹 梶原 西多摩
戸 塚	戸塚區	下總	鎌倉區 三浦區 高座區 大任 滝綾 足柄上
浦 和	浦和區	武藏	北足立區 新座區 南埼玉區 北葛飾區
川 越	川越區	武藏	入間區 高麗 比企 横見 秩父
熊 谷	熊谷區	武藏	大里區 北埼玉區 旆羅 榛澤 男表 兒玉
靜 岡	靜岡縣	駿河	賀美區 那珂區
吉 原	吉原區	駿河	安房區 志太區 益津區 有渡區 庵原區
山梨縣	山梨縣	伊豆	富士區 駿東區
甲 府	甲府府	伊豆	君津區 田方區 賀茂區 那賀區
西山梨縣	西山梨縣	山梨縣	東山梨區 南都留區 北都留區 東八代區

兵事 在籍兵

四百五十五

第六條ニ載スル七軍管轄區域表參看スヘシ
十七年三月七日滋賀縣令第一號告示ヲ以テ本所區ニ府縣在所區ニ在所ヲ置キ北葛飾郡杉戸ニ葛飾縣在所ヲ及郡區在所ヲ置ク其告示ハ後ニ出
十九年十月一日滋賀縣令第一號告示ヲ以テ伊豆國七島ヲ駒町駐在所ノ管轄トス
十七年三月七日滋賀縣令第一號告示ヲ以テ靜岡縣在所ヲ伊豆國君津郡三島ニ改メ郡區在所ヲ置ク其告示

十四年本縣甲
第四十六號布
達ハ前ニ出

十四年本縣甲
第四十六號布
達ハ前ニ出

軍管區域表ハ
第六條ニ出

第一軍管第二
師管原本ノマ
、恐クハ第一
軍管第一師管
ノ誤ナラン

六		佐賀		佐賀縣		肥前	佐賀 基肆 養父 三根 神崎 小城
四		伊萬里	佐賀	佐賀縣		肥前	東松浦 西松浦 杵嶋 藤津
仲津	仲津	大分縣	豐前	下毛	宇佐		

○明治十六年七月二十五日滋賀縣甲第八拾三號布達

明治十四年三月本縣甲第四拾六號布達後備軍司令部條例駐在所位置

並管轄區畫表中第六軍管第十三師管郡區駐在所位置「山鹿」ヲ「隈府」ト
相改候旨其筋ヨリ達有之候條此旨布達候事（其筋ヨリ達ハ明治十六年七月七日陸軍省達甲

第貳拾四號達ナリ

○明治十六年十月三十一日滋賀縣甲第百拾六號布達

明治十四年三月本縣甲第四拾六號布達後備軍司令部條例駐在所位置
並管轄區畫表中第三軍管第六師管郡區駐在所位置「下小田井」ヲ「枇杷
島」ト相改候旨其筋ヨリ達有之候條此旨布達候事（其筋ヨリ達ハ明治

日陸軍省達甲第
三拾八號達ナリ

○明治十七年三月七日滋賀縣告第貳拾號告示

今般軍管疆域改正相成候ニ付テハ府縣駐在所及ヒ郡區駐在所ノ位
置左ノ通追加改定相成候旨其筋ヨリ達有之候條此旨告示候事

（明治十七年二月二十九日）
陸軍省達甲第拾四號達

一 第一軍管第二師管ニ屬スル静岡縣駐在所駿河國静岡ヲ伊豆國君

澤郡三島ニ改メ又郡駐在所一名ヲ置キ同所ヲ駐在所トシ伊豆全

國ヲ管轄セシム

一 同第二師管ニ屬スル東京府ニ府駐在所一名書記一名ヲ置キ武藏

國本所區ヲ駐在所トシ又區駐在所一名ヲ置キ同所ヲ駐在所トシ

本所區深川區南葛飾郡ヲ管轄セシム

一 同第二師管ニ屬スル埼玉縣ニ縣駐在所一名書記一名ヲ置キ武藏

國北葛飾郡杉戸ヲ駐在所トシ又郡駐在所一名ヲ置キ同所ヲ駐在所

二十年二月五日陸軍省令第一號ヲ以テ第一師管宮城縣駐在所ヲ此郡石巻ニ移ス

從前愛知縣ハ第六師管ニ屬ス

所トシテ南埼玉郡北埼玉郡北葛飾郡中葛飾郡ヲ管轄セシム

一 第二軍管第四師管ニ屬スル宮城縣ニ縣駐在官一名書記一名ヲ置キ陸前國志田郡古川ヲ駐在所トス

一 同第四師管ニ屬スル陸前國加美郡黒川郡宮城郡ハ志田郡古川駐在所ノ管轄ニ屬セシム

一 同第四師管ニ屬スル山形縣ニ縣駐在官一名書記一名ヲ置キ羽後國酒田ヲ駐在所トシ又郡駐在官一名ヲ置キ同所ヲ駐在所トシ飽海郡ヲ管轄セシム(從前山形縣ハ第五師管ニ屬ス)

一 第三軍管第五師管ニ屬スル靜岡縣駐在所遠江國濱松ヲ駿河國靜岡ニ改ム(從前濱松ハ第六師管ニ屬ス)

一 同第五師管ニ屬スル愛知縣ニ郡駐在官一名ヲ增シ尾張國海東郡津島ヲ駐在所トシ葉栗郡中嶋郡海東郡海西郡ヲ管轄セシム

一 同第六師管ニ屬スル愛知縣ニ縣駐在官一名書記一名ヲ置キ尾張

第二號布告ハ本編ニ入用ナシキニ付登載セ

國西春日井郡枇杷島ヲ駐在所トス

一 第四軍管第七師管ニ屬スル三重縣ニ縣駐在官一名書記一名ヲ置キ伊賀國阿拜郡上野ヲ駐在所トス(從前上野ハ第九師管ニ屬ス)

一 同第八師管ニ屬スル大坂府ニ縣駐在官一名書記一名ヲ置キ攝津國西成郡曾根崎ヲ駐在所トシ又郡駐在官一名ヲ置キ同所ヲ駐在所トシ西成郡島上郡島下郡豊島郡能勢郡ヲ管轄セシム

○明治十七年三月十三日滋賀縣告第貳拾三號告示

本年太政官第二號布告ヲ以テ栃木縣廳位置ヲ下野國河内郡宇都宮ニ改定相成候ニ付テハ該縣駐在所位置下野國栃木ヲ同國宇都宮ニ改定候旨其筋ヲ達有之候條此旨告示候事(其筋ヨリ達ハ明治十七年三月八日陸軍省達ニ達ナリ)

○明治十八年十二月二十八日滋賀縣甲第百八十八號布達

第一軍管第二師管栃木縣郡駐在所位置及管轄區域改正ノ義ニ付別

紙之通其筋ヨリ達相成候條此旨布達候事

(別紙)

達甲第四十九號

廢縣ノ沖繩札帳帳室

第一軍管第二師管朽木縣郡駐在所位置及管轄區域左之通改正候條
此旨相達候事

明治十八年十二月十八日

陸軍卿伯爵大山

嚴

一 下都賀郡駐在所ヲ廢シ下都賀郡寒川郡ヲ安蘇郡駐在所管轄ニ安
蘇郡管轄之内上都賀郡ヲ河内郡駐在所管轄ニ屬セシム

一 那須郡太田原ニ郡駐在所ヲ置キ河内郡駐在所管轄之内那須郡鹽

谷郡ヲ管轄セシム

○明治十九年三月九日滋賀縣甲第三拾九號布達(三月十一日發布)

本年第一號布告ハ本編ニ入用ナキニ付登載セス

本年本縣甲第三十九號布達ハ前ニ出

甲令第壹號 本年三月三日ヲ以テ達セラル

右布達ス(十九年三月十六日滋賀縣通知ヲ以テ陸軍省令ノ下ニ(甲)ノ字ヲ加フ其通知ハ後ニ出)

○明治十九年三月十六日滋賀縣通知

本年本縣甲第三拾九號布達中陸軍省令ノ下甲ノ字ヲ脫ス

○明治十九年五月廿日滋賀縣甲第七拾四號布達(五月廿二日發布)

越後國東蒲原郡ノ儀是迄福島縣北會津郡駐在所ノ管轄ニ係處今般

勅令第四拾三號ヲ以テ新潟縣管轄ニ被定候ニ付新潟縣新潟區駐在所

所ノ管轄トスル旨陸軍省令甲第十七號(本年五月十八日)ヲ以テ達セラル

右布達ス(勅令第四拾三號ハ本編ニ入用ナキニ付登載セズ)

○明治十九年十月二日滋賀縣令甲第二十九號(公報十月六日)

東京府管下伊豆國七嶋ヲ同府麴町駐在所ノ管轄トスル旨本年九月陸

軍省令甲第三十八號ヲ以テ達セラル

○明治十九年十二月二十八日陸軍省令第四十五號

滿ノ字原本ノマハ瀉ノ字ノ誤ナラン

本年本縣甲第三十九號布達ハ前ニ出

十四年達甲第七號達後備軍司令部條例ハ前二出

明治十四年當省達甲第七號鎮座ハ送乙第達後備軍司令部條例中左ノ通改正追加シ明治三十年四月三十日ヨリ施行ス

第五條第一項ニ左ノ但書ヲ加フ

但分營所在地府縣駐在所ハ分營ニ召集ス可キ歸休兵并ニ豫備役後備軍驅員兵員ニ係ル事務ヲ兼掌ス

第五條第三項中、徵兵調査及ヒ「ヲ削リ」擔任ス「ヲ」擔任シ及毎年新兵徵集ノ際徵兵檢査所ニ出頭シ同所ノ事務ヲ補助ス」ニ改ム

「第四章後備兵點呼」ヲ削ル
第三十一條ヨリ第四十四條ニ至ル諸條ヲ削ル

「第五章」ヲ「第四章」ニ「第四十五條」ヲ「第三十一條」ニ改メ以下箇條順次繰リ上ケ

第五十四條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第四十一條 分營ニ召集ス可キ歸休兵并ニ豫備役後備軍驅員兵員ノ名簿ニ適宜之ヲ調製シ同地府縣駐在所ニ備置ク可シ

○明治二十年二月五日陸軍省令第二號 後備軍司令部條例中左ノ通改定ス

○ 群馬縣東群馬郡駐在所ヲ同縣西群馬郡高崎ニ移シ西群馬郡駐在所ト稱ス

新潟縣新潟區駐在所ヲ同縣北蒲原郡新發田ニ移シ北蒲原郡駐在所ト稱ス

福嶋縣岩瀨郡駐在所ヲ同縣西白河郡白河ニ移シ西白河郡駐在所ト稱ス

第四師管宮城縣駐在所ヲ牡鹿郡石卷ニ移ス

第四師管宮城縣志田郡駐在所ヲ牡鹿郡石卷ニ移シ牡鹿郡駐在所

後備軍司令部條例ハ前二出

ト稱ス

第七師管大坂府堺區駐在所管轄ノ内丹北郡大縣郡ヲ同府東區駐在所ノ管轄トシ同府式上郡駐在所管轄ノ内葛上郡葛下郡忍海郡宇智郡ヲ同府堺區駐在所ノ管轄トス（從前堺區及式上郡ハ第八師管ニ屬ス）兵庫縣河邊郡駐在所管轄河邊郡有馬郡ヲ同縣神戶區駐在所ノ管轄トス

兵庫縣河邊郡駐在所ヲ同縣加東郡社村ニ移シ加東郡駐在所ト稱ス

兵庫縣飾東郡駐在所管轄ノ内加東郡加西郡加古郡印南郡神東郡神西郡多可郡及ヒ朝來郡駐在所管轄ノ内多紀郡ヲ同縣加東郡駐在所ノ管轄トス

兵庫縣飾東郡駐在所管轄ノ内明石郡美囊郡ヲ同縣神戶區駐在所ノ管轄トス

第八師管京都府南桑田郡駐在所ヲ同府船井郡園部ニ移シ船井郡駐在所ト稱ス

第五拾貳條 後備軍驍員條例

○明治十三年三月二十二日滋賀縣甲第貳拾六號布達別冊後備軍驍員條例其筋ヨリ公達相成候條此旨布達候事

（別冊）後備軍驍員條例（明治十三年二月二十八日）
（太政官第十五號達）

第一條 凡後備軍驍員ハ將校下士并ニ會計軍醫馬醫軍樂各部全等官ノ常備豫備兩軍服役年限ヲ終リタル者并ニ陸軍一定ノ規則ニ由リ後備軍ニ轉スル者ヲ以テ之ニ充テ常ニ其本籍ニ歸住シ地方所管鎮臺ノ統轄ニ屬スル者トス

第二條 將官并ニ全等官ノ後備軍驍員ニ轉スル法ハ將官退職令ニ詳ナルヲ以テ茲ニ掲ケス

第三條 後備軍ノ驍員タル可キ者ハ左ノ如シ

將官退職令ハ
本編ニ入用ナ
キニ付登載セ
ス

第一項 服役停年ニ由リ恩給ヲ受ケ退職スル各兵科上長官士官
 并ニ各部全等官
 第二項 年齢制限并ニ陸軍一定ノ規則ニ由リ罷役ニ入ル各兵科
 上長官士官并ニ各部全等官
 第三項 豫備役満期後備役ニ入ル各兵科士官及ヒ各部全等官并
 ニ後備軍艦員中ノ各兵科下士及ヒ各部全等官ヨリ士官ニ任セ
 ラレタル者
 第四項 陸軍部外ノ官廳ニ奉職スル各兵科上長官士官并ニ各部
 全等官
 第五項 陸軍一定ノ規則ニ由リ後備軍籍ニ編入スル各兵科下士
 并ニ各部全等官
 第六項 豫備役満期後備役ニ入ル各兵科下士及ヒ全等官并ニ後
 備服役中ノ兵卒ヨリ下士ニ任セラレタル者

十四年一月十
 八日太政官第
 五號達ヲ以テ
 第三條第四項
 へ但書ヲ追加
 ス其達ハ後ニ
 出

十三年九月二
 十八日太政官
 第五十一號達
 ナ以テ第五條
 へ一項追加其
 達ハ後ニ出

第四條 第三條第一項ニ當ル者及ヒ第二項ノ年齢制限ニ至リ罷役
 ニ入ル者ニ在テハ退職若シクハ罷役ヲ命セラレタル日ヨリ五ヶ
 年間後備軍艦員ニ服スヘシ
 第五條 第三條第二項ノ陸軍一定ノ規則ニ由リ罷役ニ入ル者及ヒ
 第四項ニ當ル者ニ在テハ現役ニ於テ定メタル年齢制限マテ後備
 軍艦員ニ服スヘシ
 第六條 第三條第三項ノ豫備役満期後備役ニ入ル者又ハ士官ニ任
 セラレタル者ハ豫備役満期後備役ヲ命セラレタル日若シクハ士
 官ニ任セラレタル日ヨリ四ヶ年間後備軍艦員ニ服スヘシ
 第七條 第三條第五項ノ後備軍籍ニ編入スル者ハ常備役或ハ豫備
 役(常備現役中事故ニ由
 リ豫備役ニ入タル者)満期後備役ヲ命セラレタル日ヨリ三ヶ年
 間後備軍艦員ニ服スヘシ
 第八條 第三條第六項ニ當ル者ハ豫備役満期後備役ヲ命セラレタ

十三年九月二十八日太政官第五十一號達ヲ以テ第十條ハ但書加道其達ハ後ニ出

ル日又ハ下士ニ任セラレタル日ヨリ四年間後備軍驛員ニ服ス

第九條 各兵科上長官士官下士并ニ各部分等官ノ後備軍驛員服役年限ハ前諸條ニ示ス如シト雖モ尙ホ引續キ後備軍ノ驛員ヲラシトテ欲スル者ハ上長官并ニ全等官ハ年齢六十五歳士官并ニ全等官ハ年齢六十歳下士并ニ全等官ハ年齢五十歳迄願ニ依テ後備軍ノ驛員タルコトヲ得ヘシ

第十條 後備軍驛員ハ陸軍ノ制服ヲ著シ其官階ニ應スル禮款ヲ享ルノ權ヲ有スルノミナラズ其學術才能ニ從ヒ亦進級スルコトヲ得ヘシ

第十一條 後備軍ノ驛員タル者ハ常ニ本籍地方ノ後備軍諸隊ニ配付ス而シテ戰時ハ勿論非常ノ事故アルニ當リ常備軍上長官士官下士并ニ全等官ノ缺員ヲ補充スルコトアルヘシ

十八年十二月二十二日太政官第六十九號達ヲ以テ太政大臣各省總理事大臣各省大臣ヲ置ク

第十二條 後備軍驛員ノ其官階ニ應スル禮款ヲ享ケ又ハ進級スルコトヲ得ルハ第十條ニ示ス如シト雖モ其席次ハ各常備軍ニ在役セル全等官ノ未坐タルヘシ又後備軍中ニ於テ進級シタルモノ若シ常備軍ノ補缺トナルトキハ其官階ヲ下シ入隊セシムルコトアルヘシ然レトモ以前常備軍服役中ノ官階ヨリ下スコトナキモノトス

第十三條 後備軍驛員ノ上長官士官并ニ各部分等官年限滿期ニ至ルトキハ第十五條其第一書式ニ準シ成規ノ順序ヲ以テ陸軍卿ニ致仕或ハ免官ヲ請フヘシ若シ引續キ驛員タラシコトヲ欲スル者ハ第十五條其第二書式ニ準シ全様ノ手續ヲ以テ許可ヲ請フヘシ

第十四條 其下士并ニ全等官ノ滿期ニ至ル者ハ所管鎮台司令官ニ於テ本官ヲ免スヘシ若シ又引續キ服役セント欲スル者ハ滿期以前ニ第十五條其第二書式ニ準シ成規ノ順序ヲ以テ願出ルキハ鎮台司令官ニ於テ聞届クヘシ

第十五條 後備軍艦員ヲ辭シ又ハ引續キ服務セント欲スル者ハ左ノ書式ニ準シ願出ツヘシ

其一書式

某儀

年號月日後備軍艦員被仰付服務罷在候處本年何月ニテ滿期相成候ニ付後備軍艦員被免本官被免候様仕度此段奉願候也

使(府)縣管下何國何郡(區)何町(村)華(士族)平(民)

何鎮台管轄後備軍艦員

年號月日

官姓名印

陸軍卿 何某殿

其二書式

某儀

年號月日後備軍艦員被仰付(被申付)服務罷在候處本年何月ニテ服

十八年十二月二十二日太政官第六十九號達ヲ以テ太政大臣各省卿等ヲ廢シ更ニ總理大臣各省大臣ヲ置ク

十八年十二月二十二日太政官第六十九號達ヲ以テ太政大臣各省卿等ヲ廢シ更ニ總理大臣各省大臣ヲ置ク

役滿期ニ至リ候ヘ共未タ後備軍艦員年齡定限未滿中ニ付尙往キ何ケ年間引續キ服務仕度候間御許可被成下度此段奉願候也

使(府)縣管下何國何郡(區)何町(村)華(士族)平(民)

何鎮台管轄後備軍艦員

年號月日

官姓名印

陸軍卿(何鎮台司令官)何某殿

第十六條 後備軍艦員タル者陸軍部外ノ官廳ニ奉職スルハ妨ナシト雖モ戰時ハ勿論非常召集又ハ定例復習ノ時ハ速ニ其召集ニ應スヘキモノトス

第十七條 後備軍艦員タル者陸軍部外ノ官廳ニ於テ登庸セント

欲スルハ其官廳ヨリ戰時ハ勿論非常其他ニ當リ速ニ召集ニ應

セシムヘキ旨ヲ約シ艦員所管ノ鎮臺ヘ協議ノ上採用スヘシ

第十八條 後備軍艦員ニシテ他ノ官廳ニ奉職スル者其奉職地ノ鎮

兵事 在郷兵

台本籍地ノ鎮台ト異ナルキ其奉職地鎮台ノ後備軍驅員ニ轉セシ
ト欲スル者ハ本籍鎮台ニ其事由ヲ詳ニシ轉籍ヲ願出ヘシ

第十九條 後備軍驅員ノ旅行又ハ某ノ地ニ寄留セントスル者一軍
管内ニ在テハ召集ニ差支ヘサル爲メ其往ク先ヲ詳ニシ成規ノ如
ク届出又軍管外ニ係ルキハ所管鎮台ノ許可ヲ受クヘシ若シ其寄
留地ノ後備軍驅員ニ轉セント欲スル者ハ其事由ヲ詳ニシ願出ル
トキハ詮議ノ上許可スヘシ

第二十條 後備軍驅員ノ轉居セント欲スルキ一軍管内ニ在テハ其
旨ヲ鎮台ニ届出ヘシ若シ他ノ軍管下ニ轉籍セント欲スルモノハ
所管鎮台ニ願出許可ヲ受クヘシ

第二十一條 後備軍驅員ノ外國ニ旅行又ハ滞在セント欲スル者ハ
其事由ヲ詳ニシ所管鎮台ノ許可ヲ受クヘシ但シ旅行又ハ滞在中
ハ平時ノ復習ニ應スルニ及ハスト雖モ戰時或ハ非常戒嚴ノ宣告ア

ルキハ速ニ歸國シ所管鎮台ニ届出ヘシ

第二十二條 服役中不治ノ病ニ罹リ或ハ不具トナリ職務ニ堪ヘ難
キ者ハ陸軍醫官陸軍醫官不在ノ地ハ其地方醫官陸軍醫官不在ノ地ハ二名以上ノ診斷書ヲ添ヘ所管鎮台ニ
届出ヘシ若シ死没スルキハ其親族等ヨリ其所管鎮台ニ届出ツヘ
シ

第二十三條 後備軍驅員ノ願届書ハ士官以上ニ在テハ本籍地方後
備軍司令官ヲ經由シ所管鎮台司令官ニ差出シ下士ハ本籍後備軍
使府縣駐在官ニ差出シ後備軍司令官ヲ經テ所管鎮台司令官ニ呈
スヘシ

第二十四條 後備軍驅員ノ寄留又ハ轉籍及ヒ他ノ官廳ニ奉職ノ故
ヲ以テ甲鎮台ヨリ乙鎮台ノ後備軍驅員ニ轉シントキ願出之ヲ許
可スルトキハ甲鎮台ニ於テハ其兵籍ヲ乙鎮台ニ送致スヘシ

○明治十三年九月二十八日太政官第五拾壹號達官省院使

後備軍驅員條
例ハ前ニ出

本年二月拾五號達後備軍艦員條例第五條并ニ第十條へ左ノ通追加候條此旨相達候事

第五條ノ條末ニ左ノ一項ヲ加フ

軍醫部馬醫部ノ上長官士官ニ在テハ第三條第一項第二項ニ掲ル者ノ外非職中ノ者ト雖モ陸軍卿ノ具狀ニ由リ後備軍艦員ニ轉シムルコトアルヘシ然ル時ハ現役ニ於テ定タル年齡定限マテ服役スヘシ

第十條へ左ノ但書ヲ加フ

但下士ニ在テハ非常或ハ復習等召集ノ時ハ必ス制服ヲ着スヘシ又公私ノ儀式祭典ニ關スル時ハ之ヲ着スルモ妨ナシ其他ハ一切其着用ヲ許サス且武器ヲ携帯スルハ召集中ニ限ルモノトス

○明治十四年一月十八日太政官第五號達官省陸使 廳府縣へ

十八年十二月二十二日太政官第六十九號達ヲ以テ太政大臣各省卿等ヲ廢シ更ニ總理大臣各省大臣ヲ置ク

後備軍艦員條例ハ前ニ出

明治十三年二月第十五號達後備軍艦員條例第三條第四項へ左ノ但書追加候條此旨相達候事

但太政官軍事部勤務ノ者ハ此限ニ在ラス

第五拾三條 豫備役後備軍艦員軍籍異動届出手續

○明治二十年四月二十八日滋賀縣令第百貳拾四號(公報四月三十日) 陸軍召集條例第四百十八條ノ旨趣ニ基キ豫備役後備軍艦員軍籍異動届出手續左之通相定ム

豫備役後備軍艦員軍籍異動届出手續

第一條 豫備役後備軍艦員命拜又ハ服役中身上ニ異動ヲ生シタルトキハ此手續ニ據リ届出ヘキモノトス

第二條 艦員拜命又ハ身上ニ異動ヲ生シタルトキハ拜命又ハ異動

陸軍召集條例ハ第六十八條ニ出

ノ日ヨリ三日以内ニ其旨届出ヘキモノトス
但其届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルヲ要ス

- 一 族籍住所官名位階勳等
- 二 軀員拜命ノ年月日
- 三 異動ヲ生シタル年月日

第三條 異動ハ轉籍寄留改氏名戸主嗣子養嗣子分家退隱死没及官名位勳ニ變更アル等ヲ云フ

第四條 異動届書ハ準士官以上ハ鎮臺後備軍司令官ニ下士ハ縣駐在官ニ宛共ニ戸長ニ差出スヘシ

但死没等ハ親戚ヨリ届出ヘキモノトス

第五條 本縣管内甲地ヨリ乙地ニ轉籍スルトキハ甲乙兩地ヨリ届出ヘシ

但一戸長役場所轄内ニ於テ轉籍スルモノハ乙地一方ヨリ届出

ルモノトス

第六條 他府縣ニ轉籍スルトキハ原籍出發前ニ届書ヲ戸長ニ差出スヘシ

第七條 他府縣ヨリ本縣ニ轉籍スルモノハ其入籍ノ手續ヲ了シタル日ヨリ三日以内ニ届出ヘシ

第八條 戸長ハ前條ノ届書ヲ受領セハ直ニ充員名簿及後備軍召集名簿ニ訂正ヲ加ヘ之ニ與書証印ノ上即日郡長ニ差出シ郡長ハ充員名簿及後備軍召集名簿ニ訂正ヲ加ヘ届書欄外ニ官印ヲ押捺シ即日郡駐在官ニ送致スヘシ

但第六條ノ届書ハ加籍ノ報知ヲ得テ其年月日ヲ届書中ニ朱記シ然ル後本條ノ手續ヲ爲スヘシ

第九條 郡長ハ前條ノ届書ニ依リ充員名簿及後備軍召集名簿ニ訂正ヲ加ヘタルトキハ即日其事由ヲ詳記シ縣廳ニ報告スヘシ

第十條 前各條ノ外別段ノ規則アルモノハ各其規則ニ從フヘシ

第五拾四條 歸休兵并ニ豫備後備兵身上異動及ヒ轉籍其他取扱方

○明治十二年三月二十日滋賀縣甲第拾八號布達常備兵歸休概則第

八條第九條

(本文ハ第六拾五條ニ出)

○明治十四年三月二十四日滋賀縣甲第四拾六號布達後備軍司令部

條例第三章

(本文ハ第五拾壹條ニ出)

○明治十九年七月二十四日滋賀縣令甲第壹號滋賀縣徵兵事務取扱

手續第十章

(本文ハ第八拾九條ニ出)

○明治二十年三月十七日滋賀縣令第九拾壹號ノ内

(本文ハ第八拾九條ニ出)

○明治二十年四月二十八日滋賀縣令甲第百貳拾五號

(本文ハ第八拾九條ニ出)

第五拾五條 補充員并ニ豫備徵員身上異動屆及ヒ旅行願手續

○明治十七年七月十九日太政官第拾八號布達徵兵事務條例第九十

四條第九十六條第九十七條第九十九條第百條

(本文ハ第八拾九條ニ出)

○明治十九年七月二十四日滋賀縣令甲第壹號滋賀縣徵兵事務取扱

手續第八章ノ内

(本文ハ第八拾九條ニ出)

○明治二十年三月十七日滋賀縣令第九拾壹號ノ内

(本文ハ第八拾九條ニ出)

第五拾六條 豫備後備兵勳等ニ叙セラレタル兵屆出ノ事

○明治十二年五月十三日滋賀縣丙第七拾七號達_長

十二年十一月八日陸軍省布

第一號布達ヲ以テ第一後備軍ヲ豫備軍ト改稱シ第二後備軍ヲ後備軍ト改稱ス第三十九條ニ出

本年本縣甲第九十三號布達ハ廢止ニ付略ス○後備軍司令部條例ハ第五十一條ニ出

十二年十一月八日陸軍省布第一號布達ヲ以テ第二後備

縣下後備兵ノ内勤等ニ被叙候者他管元隊ヨリ直ニ本人ニ授與相成候者有之哉ニ付テハ右拜受ノ者無遺漏取調本廳ニ可届出候尤モ向後ハ拜受ノ都度可届出此旨相達候事

第五拾七條

豫備後備軍服役中ノ者親養子入夫其他結婚出願手續

○明治十四年九月二十一日滋賀縣申第百第五拾號布達
豫備後備兩軍服役中ノ者結婚ノ節出願手續及ヒ書式等曾テ大阪鎮臺ヨリ照會ノ旨ニヨリ本年六月本縣甲第九拾三號ヲ以テ及布達置候處今般後備軍司令部條例第二十四條改正相成候ニ付テハ最前ノ手續ハ相廢候旨同臺ヨリ照會有之候條自今親養子或ハ入夫其他總テ結婚致シ候節ハ後備軍司令部條例第二十四條ニ據リ願出ヘキ儀ト可相心得此旨布達候事

第五拾八條

後備軍ノ者願伺届書進達員數ノ事
○明治九年九月九日滋賀縣乙第百貳拾九號布達

軍ヲ豫備軍ト改稱シ第二後備軍ヲ後備軍ト改稱ス其布達ハ第三十九條ニ出

相達原本ノマ、恐クハ布達ノ誤ナラン

當縣下後備軍ノ者諸願伺書ハ從前ノ通正副四通可差出届書ノ儀ハ自今必ズ正副四通可差出様可達置旨其筋ヨリ申越候條此旨相達候事

右管内後備軍ノ者及ヒ正副區戶長ニ無洩至急布達スル者也

第五拾九條 後備軍司令部名稱等改稱ノ事

○明治十七年八月十四日滋賀縣甲第八拾八號布達
後備軍司令部名稱ノ義自今鎮臺或ハ營所ノ名稱ニ從ヒ其鎮臺下ニ在ルヲ某鎮臺後備軍司令部其營所ノ地ニ在ルヲ某營所後備軍司令部ト改稱就テハ後備軍司令部官員職名ノ義モ隨テ換稱候旨其筋ヨリ達有之候條爲心得此旨相達候事(其筋ヨリ達ハ明治十七年八月八日陸軍省達甲第三拾三號及達甲第三十四號ナリ)

第六拾條 豫備軍艦員ヲ豫備役艦員ト改稱ノ事

○明治十七年五月十五日滋賀縣告第四拾六號告示

豫備軍艦員ハ儀自今豫備役艦員ト改稱候旨其筋ヨリ逕有之候條此旨告示候事(其筋ヨリ達ハ明治十七年五月九日陸軍省達甲第貳拾號達ナリ)

第六拾壹條 近衛兵滿期鎮臺豫備後備役編入ノ者編入替ノ事

○明治十八年八月二十二日滋賀縣甲第百貳拾貳號布達

近衛豫備役後備役ノ義別紙ノ通陸軍卿ヨリ逕有之候條此旨布達候事

(別紙)

達甲第三拾六號

府縣函館 釧路 札幌 根室 函館 函館 函館 函館

從來近衛兵滿期ニテ既ニ本籍地方所管ノ鎮臺豫備役又ハ後備役ニ編入シ今猶在役ノ者ハ此際更ニ近衛豫備役又ハ後備役ニ編入替爲致候條此旨相達候事

明治十八年八月十一日

陸軍卿伯爵大山 藏

第六拾貳條 近衛下士滿期等ニ依リ豫備役及ヒ後備軍艦員ニ入籍

ノ者近衛艦員ニ定メラル、ノ事

○明治十九年二月二十二日滋賀縣甲第貳拾壹號布達(二月廿七日發布)

近衛下士滿期又ハ家事故障ニ依リ豫備役及ヒ後備軍艦員ニ入籍ノ者ハ自今近衛艦員ニ被相定候ニ就テハ從前近衛下士ニシテ既ニ本籍地方所管鎮臺ノ豫備役及ヒ後備軍艦員ニ編入セラレ今猶在役ノ者ハ此際更ニ近衛豫備役及ヒ後備軍艦員ニ編入替ヲ爲シ在郷中ハ本籍地方所管鎮臺ノ管理ニ屬セラレ

右布達ス

第六拾三條 徵兵令改正ニ付豫備後備兵服役ノ者服役年期ノ事

○明治十七年三月十二日滋賀縣甲第三拾三號布達

明治十六年十月十二日太政官第四十六號布告ヲ以テ徵兵令改正相成候ニ付テハ目下豫備兵及ヒ後備兵服役ノ者ハ全令第三條及ヒ第四條ニ

徵兵令ハ第九條ニ出

據リ左ノ通可相心得旨其筋ヨリ達有之候條此旨布達候事

○
(明治十七年三月四日陸軍省達甲第拾五號達)

一目下豫備兵服役中ノ者ハ最初豫備軍へ編入セシ年ノ四月廿日ヨリ起算シ四ケ年ノ役ニ服セシメ滿期ノ後後備兵役ニ服セシム

但定期ニ非スシテ臨時豫備軍へ編入セシ者ハ其編入セシ日ヨリ起算シ四ケ年ノ役ニ服セシメ滿期ノ後後備兵役ニ服セシム

一目下後備兵服役中ノ者ハ最初後備軍へ編入セシ年ノ四月廿日ヨリ起算シ五ケ年ノ役ニ服セシメ滿期ノ後國民兵役ニ服セシム

但定期ニ非スシテ臨時後備軍へ編入セシ者ハ其編入セシ日ヨリ起算シ五ケ年ノ役ニ服セシメ滿期ノ後國民兵役ニ服セシム

○明治十九年十一月三十日閣令第三拾壹號

(本文ハ第三拾九條ニ出)

第六拾四條 軍隊手帖番號割符通行免狀等遞送費償却方

十五年一月二十四日滋賀縣乙第貳號達ヲ以テ増補ノ際アリ參看スヘシ其達ハ後ニ出○十九年五月二十八日滋賀縣乙第六十號達ヲ以テ費用請求期限并ニ明細書式ヲ定ム其達ハ後ニ出

客年乙第二十
六號達ハ前ニ

○明治十四年十二月十日滋賀縣乙第貳拾六號達郡役所、戶長役場へ

軍隊手帖番號割符或ハ通行免狀等豫備後備軍ノモノへ下附又ハ引揚ニ付郡戶長ニ於テ要スル郵便并ニ通運費本人ノ疎漏ニ依リ遺失等ニテ下渡ヲ出願スル費用ヲ除クノ外實費可支拂旨大阪鎮臺ヨリ申越候條戶長役場ニ於テ右ニ關スル費用ハ郡役所へ申出郡役所ニ於テハ支辨セシ費用ト共ニ明細書貳通調製シ當廳へ可申出此旨相達候事

○明治十五年一月二十四日滋賀縣乙第貳號達郡役所、戶長役場へ

軍隊手帖番號割符或ハ通行免狀等豫備後備軍ノ者へ下付又ハ引揚ニ付郡戶長ニ於テ要スル郵便稅等有之節明細書差出方ノ儀ニ付客年乙第二十六號ヲ以テ相達候處右兩軍籍ノモノ及歸休兵ノ内住所僻地ニシテ遞送ノ便無之歟又ハ事至急ニ出テ別仕立ヲ要スル費用

モ本人ノ疎漏ニテ遺失等ニ係ルヲ除クノ外ハ實費可仕拂旨尙又其筋ヨリ申越候條右ニ關スル費用有之節ハ同様明細書可差出此旨相達候事

○明治十九年五月二十八日滋賀縣乙第六拾三號達(六月二日發布)郡役所
所長
役場へ

軍隊手帖番號割符或ハ通行免狀等運送費請求方ノ儀去ル明治十四年十二月乙第二十六號ヲ以テ相達置候處今般大坂鎮臺ヨリ照會ノ次第モ有之候條自今戶長役場ニ於テ支拂タル費用ハ每六ヶ月會計年度ニ二期ニ分ツ分取調翌月五日限り郡役所へ申出へシ郡役所ニ於テハ其支拂タル費用ト共ニ別紙書式ノ明細書(受領證書)ヲ添付シ十五日限り郡長ヨリ直ニ郡駐在官へ請求スヘシ
但支拂タル費用ナキトキハ其旨本文日限マテニ戶長役場ハ郡役所へ郡役所ハ郡駐在所へ報道スヘシ

十四年乙第二十六號ハ前ニ出

紙別

明治何年 自何月 至何月 郵便稅受領證書

一金拾貳錢

内譯

通信場所	度	數	量	目	全	稅	書留及割	全	稅	小	計
何所ヨリ何所ニ至ル	一	度	貳	匁	貳	錢	書留	六	錢	金	八
同	一	度	八	匁	貳	錢	開			金	貳
同	一	度	貳	匁	貳	錢	并			金	貳
同	一	度	貳	匁	貳	錢	并			金	貳

備考

○在郷ノ諸兵ノ割符手牒等遞送費取換ノ分

○内何々處通信ノ分ハ何々ノ要件ニ付書留ヲ要ス

右仕拂相違無之候也

年月日

滋賀縣何郡長姓名印

兵事 在郷兵

第六拾五條 常備兵歸休概則

○明治十二年三月二十日滋賀縣甲第拾八號布達
 常備各種兵ノ中去ル十年西南ノ役戰死又ハ負傷者ノ爲メ夥多ノ欠員ヲ生シ同年徵募兵ヲ以テ其際臨時ニ致補欠候付テハ本年四月新兵入營ノ上ハ常備兵定額ニ若干ノ過員ヲ生スヘシ候付右過員ノ分ハ十年徵募兵ノ中ヨリ別冊ニ照準シ歸休可申付候旨其筋ヨリ達有之候條此旨布達候事

別冊

明治十年徵募常備兵歸休案則(十二年陸軍省達甲第五號)

第一條 明治十年徵募ノ常備各種兵中技藝ニ熟シ行狀方正ナル者ハ本年ノ新兵入營以前徵兵令中徵兵編成並ニ既則其第一第七條ニ準シ歸休セシムヘシ(徵兵編成並ニ概則ハ)
(現行ニ非ス故ニ略ス)
 但在營ヲ希望ズル者ハ本條ノ限ニアラス

此在達ハ永式ニ非ラザルガ如シト雖モ入營セザル常備輜重輸卒ハ現今本則ニ準シ取扱フニ付登載ス

後ニ載スル十四年一月二十日陸軍省達甲第三號達參看スベシ
 徵兵令ハ第九條ニ出

聯隊原本ノマニ恐クハ聯隊ノ誤ナラン

十二年三月二十日滋賀縣庶務課通知ヲ以テ(入營第何番)ヲ(名簿第何番)ト訂正ス其通知書ハ後ニ出

第二條 歸休ヲ命スル人員ハ其鎮臺ヨリ之ヲ各聯隊(聯隊ヲナハサ大隊又ハ中小隊以下)ニ布達シ聯隊ニ於テ人名ヲ調査シ該臺司令長官ニ申告スヘシ

第三條 歸休ヲ命スルニ先キ鎮臺ニ於テ左式ノ歸休證書ヲ製シ各自出營ノ時之ヲ授與セシムル爲メ聯隊ニ下付シ又其住所姓名ヲ每府縣ニ區別シ所管後備軍司令ニ送達スヘシ

五寸

常備兵歸休證書

明治十年		何		某	
兵	徵	鎮	何	何	某
臺		兵種第何番		名簿第何番	
右入營以來勤務勉勵技藝熟練ニ付一ケ年間歸休申付候事		府縣都區町村何番何名何男何女何弟何叔何舅何父何母		府縣都區町村何番何名何男何女何弟何叔何舅何父何母	

兵事 在籍兵

裏

歸休兵心得

一 歸休兵既ニ歸郷スレハ直ニ其地ノ戸長(區内ノ町村ニシテ區長ヲ以テ戸長ノ事務ヲ兼ヌルモノハ其區長)ニ届出ツ

一 歸休中ハ在營ノ心得ヲ以テ他出スルモ其府縣管内ヲ出ツルヲ禁ズ

一 歸休中ト雖モ陸軍ノ法令ヲ遵奉シ且地方ノ命令ニ服従スヘシ

一 召集ノ命アルキハ其達書到着ノ時ヨリ二十四時間以内ニ郷里ヲ發程シ迅カニ歸營スヘシ

第四條 歸休ヲ命シタル兵卒ニハ豫テ支給スル被服ノ内前期ノ罽帽夏冬衣袴短靴各一箇及ヒ手牒ヲ其儘附與シ別ニ桐油ノ雨衣一枚ヲ給シ銃器并右ニ掲グル品目ノ外服類靴背囊等ハ悉皆聯隊ニ返納セシムヘシ

但返納セル銃器並背囊當期ノ服類靴等ハ該隊ニ備置召集ノキ之ヲ附與スヘシ又歸休中終ニ召集ノ命ナクシテ第十三條ニ準

十二年十一月八日陸軍省布第一號布達ヲ

以テ(第一後備軍)ヲ(豫備軍)ト改稱シ(第二後備軍)ヲ(後備軍)ト改稱ス其布達ハ第三十九條ニ出

シ郷里ニ於テ第一後備軍ニ編入スル者ハ其聯隊ヨリ銃器正服背囊ヲ除クノ外之ヲ後備軍司令ニ送り復習ノ用ニ供セシムヘシ

第五條 歸休ヲ命セラレタル者ハ歸休證書ヲ所持シ歸郷旅中ハ官給ノ被服ヲ着シ靴ヲ穿ツヘシ而シテ召集ノ命アルニ當リ之ヲ着用シテ歸營セシムル者タルガ故ニ常ニ郷里ニ於テ着用スルヲ許サス

第六條 歸休兵既ニ歸郷スレハ直ニ其地ノ戸長(區内ノ町村ニシテ事務ヲ兼ヌルモノハ其區長)ニ届出戸長ノ與書證印ヲ以テ着後三日以内ニ所管駐在官ニ届出ツヘシ

第七條 歸休中ハ在營ノ心得ヲ以テ他出スルモ其府縣管内ヲ出ルヲ禁ズ而シテ召集ノ命アルキハ其達書到着ノ時ヨリ二十四時間以内ニ郷里ヲ發程シ迅カニ歸營スヘシ

第八條 歸休中同府縣内ニ其身元轉居スルキハ迅カニ左ノ第一書式ノ通り戸長ノ姓名奥書證印ヲ以テ郡區長ヲ經テ所管駐在官へ届出該官ヨリ後備軍司令ヲ經テ鎮臺及ヒ其本隊へ報告スヘシ若シ他府縣へ身元轉籍スルキハ同軍管ナレハ左ノ第二書式ノ通り他軍管ナレハ同式中兵籍御送方ノ字ヲ第何軍管常備軍へ御編入替ト認メ前手續ヲ以テ願出ツ可シ

但第二書式ニ準シ願出ル者ハ後備軍司令其本臺へ具狀シ之ヲ施行スヘシ

第一書式

私身元此度何郡區何町村へ轉居仕候間此段御届申上候以上

年號月日

第何番年號徵兵兵種 郡區町村住族職業

何 某 印

何府縣後備軍駐在官

官 姓 名 殿

前書之通和違無御座候以上

郡區町村戸長 何 某 印

第二書式

私身元此度何府縣何郡區何町村へ轉籍仕候間兵籍御送り方相

成度此段奉願候以上

年號月日

第何番年號徵兵兵種 府縣郡區町村住族職業

何 某 印

第何師管後備軍司令

官 姓 名 殿

前書之通和違無御座候以上

府縣郡區町村戸長 何 某 印

第九條 歸休中郷里ニ在テ死没等總テ身上ニ異動ヲ生スル時ハ前

條第一書式ニ準シ迅カニ其戸主ヨリ戸長ノ奥書證印ヲ以テ郡區

長ヲ經テ所管駐在官へ届出該官ヨリ後備軍司令ヲ經テ鎮臺及ヒ

其本隊へ報告スヘシ

第十條 歸休兵ヲ召集スルキハ鎮臺ヨリ直ニ所管後備軍司令ニ達シ司令ハ之ヲ其府縣駐在官へ達スヘシ

但歸休兵召集ノ旅費ハ徵兵令參考第三十一條ニ準シ支給スヘシ

第十一條 駐在官ハ前條後備軍司令ノ命ヲ受クレハ後備軍召集條

例第十三條ノ例ニ準シ直ニ召集ノ達書ヲ作り其歸營スヘキ人員

ニ應シ通行免狀ヲ併セ其郡區長ニ送達スヘシ而シテ郡區長直ニ

之ヲ歸休兵ニ通達シ通行免狀及ヒ旅費ヲ渡シ其兵卒ヲシテ第七

條ニ準シ召集ノ達書到着ノ時ヨリ二十四時間以内郷里ヲ發程セ

シムヘシ

但通行免狀ハ各兵歸業ノ上其聯隊ニ取纏メ後備軍本部ニ返付

スヘシ

徵兵令參考ハ十二年十月二十七日不政官第四十六號布告ヲ以テ廢止ニ付登載セズ但現行徵兵令ハ第九條ニ出費概則ハ第七十五條ニ出後備軍召集條例ハ十九年十月二十八日陸軍省令第四十四號ヲ以テ廢止ニ付略ス但現行召集條例ハ第六十八條ニ出

第十二條 前條召集ノ命アルニ當リ本人病氣ニテ歸營シ難キ者ハ迅カニ本人ノ願書ニ最寄地方醫師ノ診斷書ヲ添ヘ戶長へ差出スヘシ而シテ戶長其實事ヲ取札シ相違ナキニ於テハ與書證印ノ上郡區長ヲ經テ所管駐在官へ届出該官ヨリ後備軍司令ヲ經テ鎮臺及ヒ其本隊へ報告スヘシ

第十三條 歸休中終ニ召集ノ命ナシシテ常備服役期限滿ル者ハ後備軍官員服務概則第八條ニ照準シ郷里ニ於テ直ニ第一後備軍ニ編入スヘシ

但本文第一後備軍へ編入スル者歸郷ノ節附與セシ所ノ被服ハ徽章ヲ除去シ其他雨衣靴等本人ノ私有トスヘシ

第十四條 歸休兵郷里ニ在テ罪ヲ犯ス者ハ後備兵ノ郷里ニ在テ罪ヲ犯ス者ノ扱ト總テ異ナルヲナシ

○明治十二年三月二十八日滋賀縣庶務課通達 各區長へ

後備軍官員服務概則ハ十四年三月二十四日滋賀縣甲第四十六號布告ヲ以テ廢止ニ付登載セズ但現行官員服務概則ハ第四條ノ意ニ照準スヘシ

本年本縣甲第十八號布達ハ前二出

徵兵令ハ十六年十二月二十八日太政官第四十六號布達ヲ以テ全部改正ス其布告ハ後二出

明治十年徵募常備兵歸休概則ハ前二出

本年三月本縣甲第十八號布達歸休概則第三條歸休證書雛形中入營第何番ハ名簿第何番ノ誤謬ノ旨其筋ヨリ通知有之候條此旨及通達候也

○明治十四年一月二十二日陸軍省達甲第三號達府縣

明治十二年徵集常備各種兵中技藝ニ熟シ行狀方正ナル者ハ徵兵令第二條第一項ニ據リ本年新兵入營以前歸休可申付候條此旨相違候事

但歸休セシムヘキ人員并諸規則等ハ別紙ノ通心得ヘシ
〔別紙〕

一歸休ヲ命スル人員步兵ハ一中隊ニ四人騎砲工兵ハ一中隊ニ三人輜重兵ハ一小隊ニ一人ノ割ヲ以テ歸休セシムヘシ

但歸休ノ撰ニ當ル者ト雖在營希望ノ者ハ其望ニ任スヘシ
一歸休兵歸休中ノ諸規則或ハ歸休證書授與等ノ儀ハ十二年當省達

甲第五號達明治十年徵募常備兵歸休概則第二條以下ノ諸條ニ準シ取扱フヘシ

第六拾六條 歸休兵及ヒ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者賭博犯ノ處分ヲ受ケタルキ通報方

○明治十九年五月十九日陸軍省令甲第十八號北海道 府縣歸休兵及豫備後備ノ軍籍ニ在ル者賭博犯ノ處分ヲ受ケタルトキハ自今警察官ヨリ犯人本籍地ノ戶長ニ通報シ戶長ヨリ郡區駐在官ニ通報セシム可シ

○明治十九年七月二十四日滋賀縣令甲第壹號滋賀縣徵兵事務取扱手續第百三十八條

〔本文ハ第貳拾九條ニ出〕

第六拾七條 歸休兵及ヒ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者罪ヲ犯シ地方裁判所ノ處分ヲ受ケタルキ通報方

十五年陸軍省
達甲第九號達
ハ廢止ニ付登
載セス

○明治十九年五月七日陸軍省令第十五號北海道廳沖繩縣歸休兵及豫備後備ノ軍籍ニ在ル者罪ヲ犯シ地方裁判所ノ處分ヲ受ケタルトキハ其罪名刑名ヲ記シ其帶勤者ニシテ勳章ヲ褫奪セラレタルトキハ其旨ヲ記シ犯人本籍地ノ戸長ヨリ郡區駐在官へ通報シム可シ

但明治十五年四當省達甲第九號達ハ自今廢止ス

○明治十九年七月二十四日滋賀縣令甲第壹號滋賀縣徵兵事務取扱手續第百三拾七條

(本文ハ第貳拾九條ニ出)

十九年十二月二十八日陸軍省令第四十三號ヲ以テ二十年四月二十日ヨリ施行ス其省令ハ後ニ出

二十年四月十一日滋賀縣訓令第三十二號ヲ以テ陸軍召集條例第三條以下ニ付説明アリ參看スヘシ其訓令ハ第七十一條ニ出

○第四章 召集及演習

第六拾八條 陸軍召集條例

○明治十九年十月九日陸軍省令甲第三十九號
陸軍召集條例別冊ノ通定ム
但施行期日ハ遲テ達スヘシ

(別冊)陸軍召集條例目次

第一章 總則

第二章 充員召集

第三章 後備軍召集

第四章 近衛充員召集

第五章 近衛後備軍召集

第六章 演習召集

第七章 點呼召集

第八章 召集準備

陸軍召集條例

第一章 總則

第一條 陸軍召集條例ハ平戰兩時ノ緩急ニ應シ歸休兵並ニ豫備役

後備軍艦員兵員ヲ召集スルノ手續ヲ示スモノナリ

第二條 凡ソ召集ハ之ヲ別テ左ノ六種トス

一 充員召集

二 後備軍召集

三 近衛充員召集

四 近衛後備軍召集

五 演習召集

六 點呼召集

第三條 充員召集ハ戰時若シハ事變ノ緩急ニ應シ一部若クハ全國

二十年二月五日陸軍省訓令
甲第一號ヲ以テ驅員兵員寄留地ヨリ直ニ召集地又ハ集合地ニ到ラシムトテ得ル準則ヲ定ム其訓令ハ後ニ出

ノ歸休兵并ニ豫備役驅員兵員ヲ召集スルモノトス

第四條 充員召集ヲ別テ二種トス戰時若クハ事變ニ際シ團隊ヲ

戰時定員ニ充足シ補充隊ヲ編成スルモノヲ第一充員召集トシ戰

時若クハ事變ニ際スルモ其方面未ダ戰爭ヲ期セス單ニ警戒ニ止

マリ又ハ臨機分遣駐屯等ノ爲メ團隊ヲ戰時定員ニ充足シ補充隊

ヲ編成セザルモノヲ第二充員召集トス

第五條 凡ソ充員召集ニ當リ歩兵科ノ歸休兵并ニ豫備役驅員兵員

ハ各隊所在地ニ其他ノ歸休兵并ニ豫備役驅員兵員ハ鎮臺下

備限リ工兵科ノ歸休兵并ニ豫備役驅員兵員ハ本隊所在地ニ召集スルモノトス然レトモ左ニ

掲グルモノハ本營各部及ヒ各隊所在地ニ召集スベシ

一本營各部ノ行李及ヒ縱列等ニ要スル輜重兵科ノ歸休兵并ニ

豫備役驅員兵員

二各隊ノ行李ニ要スル輜重兵科ノ歸休兵并ニ豫備役驅員兵員

三本營各部及び各隊ニ要スル歸休并ニ豫備役ノ看護卒及び諸職工

第六條 後備軍召集ハ戰時若クハ事變ノ緩急ニ應シ充員召集ニ次キ一部若クハ全國ノ後備軍艦員兵員ヲ召集ス但艦員ノ召集ハ兵員ノ召集ニ先ダツモノトス

第七條 凡ソ後備軍召集ニ當リ歩兵科ノ後備軍艦員兵員ハ鎮臺下若クハ營所所在地ニ其他ノ後備軍艦員兵員ハ總テ鎮臺下ニ召集スルモノトス然レトモ輜重兵科ノ後備軍艦員兵員ハ時宜ニ由リ營所所在地又ハ其他ノ地ニ召集スルコトアルヘシ

第八條 近衛充員召集ハ戰時若クハ事變ノ緩急ニ應シ一部若クハ全國ノ近衛歸休兵并ニ豫備役艦員兵員ヲ召集スルモノトス

第九條 近衛充員召集ハ戰時若クハ事變ニ際シ團隊ヲ戰時定員ニ充足シ補充隊ヲ編成スルモノトス

第十條 凡ソ近衛充員召集ニ當リ近衛歸休兵并ニ豫備役艦員兵員ハ總テ東京若クハ臨時指定ノ地ニ召集スルモノトス但一旦軍管內近衛兵集合地ニ召集シ同地ヨリ東京若クハ臨時指定ノ地ニ引率セシム

第十一條 東京若クハ臨時指定ノ地ニ於テ一部ノ近衛充員ヲ行フトキハ諸隊本屬ノ如何ヲ問ハス該地最寄軍管ヨリ召集シテ之ニ充ツルモノトス但本條一部ノ充員ヲ行ラトキハ補充隊ヲ他ノ地ニ於テ編成スルコトアルヘシ

第十二條 近衛後備軍召集ハ戰時若クハ事變ノ緩急ニ應シ近衛充員召集ニ次キ一部若クハ全國ノ近衛後備軍艦員兵員ヲ召集スルモノトス

第十三條 凡ソ近衛後備軍召集ニ當リ近衛後備軍艦員兵員ハ總テ東京ニ召集スルモノトス但一旦軍管內近衛兵集合地ニ召集シ同

地ヨリ東京ニ引率セシム

第十四條 演習召集ハ臨時若クハ定時ニ於テ歸休兵并ニ豫備役後備軍艦員兵員ヲ召集スルモノトス

第十五條 臨時演習召集ハ戰時若クハ事變ニ際シ行フヘキ充員召集又ハ後備軍召集ノ手續ヲ演習スルモノニシテ豫メ時期ヲ定メス之ヲ行ヒ定時演習召集ハ豫メ時期ヲ定メ之ヲ行フモノトス

第十六條 臨時演習召集ハ第二章第三章第四章及ヒ第五章ヲ適用スルモノトス

第十七條 定時演習召集ハ之ヲ別テ豫備役艦員兵員演習召集後備軍演習召集ノ二種トス

第十八條 豫備役艦員兵員定時演習召集ハ歸休兵并ニ豫備役艦員兵員ヲ召集シ團隊ヲ戰時定員ニ充足シ殘餘ノモノハ召集セサルモノトス但豫備役兵員ハ服役日淺キ者ヨリ番號ノ順序ニ召集ス

ヘシ

第十九條 近衛豫備役艦員兵員定時演習召集ハ東京若クハ臨時指定ノ地ニ於テ之ヲ行フモノトス但一旦軍管内近衛兵集合地ニ召集シ同地ヨリ東京若クハ臨時指定ノ地ニ引率セシム

近衛兵員ハ時宜ニ由リ本人原籍地所管ノ鎮臺ニ於テ鎮臺兵員ト合シ演習召集ヲ行フコトアルヘシ然ルトキハ其召集法歩兵ニ在テハ各隊充足要員ノ九分一騎工兵ニ在テハ同六分一ノ比ヲ以テ之ヲ召集スヘシ其他ノ扱ハ鎮臺兵員ト異ナルコトナシ但鎮臺兵員ト合シ演習召集ヲ行フトキハ近衛豫備役艦員ハ召集セサルモノトス

第二十條 後備軍定時演習召集ハ後備軍艦員兵員ヲ召集シ聯隊若クハ大隊常備軍職ニ編成シ殘餘ノモノハ召集セサルモノトス兵員ハ服役日淺キ者ヨリ番號ノ順序ニ召集スヘシ

第二十一條 近衛後備軍定時演習召集ハ本人原籍地所管ノ鎮臺ニ於テ鎮臺後備軍ト合シ之ヲ行フモノトス其方法ハ第十九條第二項本文ノ例ニ準ス

第二十二條 點呼召集ハ近衛鎮臺ノ豫備役後備役兵員實查ノ爲メ時期ヲ定メ之ヲ召集スルモノトス

第二十三條 點呼召集ハ郡區駐在官其管轄郡區ヲ巡回シ兵員ノ概ネ一日間ニ往復ヲ爲シ得ヘキ里程内ノ地ニ於テ之ヲ行フモノトス

第二十四條 凡ツ召集ハ定時演習及ヒ點呼召集ヲ除クノ外發令後決シテ訓示ヲ仰クヘカラス故ニ陸軍諸官廳ハ勿論地方廳ニ於テ豫メ諸官ノ擔任スヘキ細務ヲ規定シ置クヘシ

第二章 充員召集

一 第一充員召集

第二十五條 鎮臺司令官ハ第一充員召集ノ令アルトキハ之ヲ營所

二十年四月二十五日陸軍省訓令第五號ヲ以テ細務規定ノ節ハ届出シム其訓令ハ後ニ出

司令官鎮臺後備軍司令官衛戍司令官其他直屬ノ各關隊各部長ニ達シ又同時ニ憲兵本部長憲兵分遣隊長ニ在テハ分遣隊長以北海道廳長官府縣知事并ニ警視總監及ヒ大審院長控訴院長檢事長始審裁判所長檢事上席ニ通知スヘシ但營所司令官所在ノ師管ニ在テハ同司令官本條ノ受取ヲ爲スヘシ

第二十六條 鎮臺營所後備軍司令官ハ第一充員召集ノ令ニ從ヒ之ヲ府縣駐在官ニ達シ同官ハ軍區駐在官ニ達スヘシ

第二十七條 郡區駐在官ハ前條ノ達ニ從ヒ召集ニ應スヘキ豫備役第一中ニ年日日ヲ記シ飛信若クハ豫定ノ脚本ヲ驅員ノ召集令狀様式ニ送付スヘシ

第二十八條 憲兵本部長ハ第二十五條ノ通知ニ從ヒ憲兵ヲシテ左ノ件々ヲ執行セシムヘシ但憲兵部ノ設ケナキ地ハ警察官吏專ラ之ヲ擔任シ憲兵部ノ設ケアル地ノ警察官吏ハ憲兵部ノ職務ヲ補

助スヘキモノトス

一 郡區駐在所郡區役所若シハ戶長役場ニ就キ召集ニ應スヘキ者ノ人名ヲ承知シ各自ノ家ニ到リ遲滯ナク發程セシヤ否ヲ調査シ若シ故ナク猶豫スルモノアルトキハ速ニ發途ヲ督促スヘシ

二 召集ニ應スヘキ驅員兵員通行ノ沿道宿驛ニ在テハ其宿泊スヘキ軍用旅舎ヲ定メ晝間ハ標旗第二夜間ハ標燈樣式第二ヲ掲ケシムヘシ

三 河川港灣停車場等ノ要地ニハ出張シテ其通行ヲ容易ナラシムヘシ

四 其筋ノ通知ニ從ヒ失蹤逃亡者ヲ搜索シ或ハ違令者ヲ拘留シ口供ヲ作り之ヲ召集地ニ引致シ若クハ遞送スヘシ

第二十九條 警視總監ハ第二十五條ノ通知ニ從ヒ之ヲ警察署長ニ

達シ又北海道廳長官府縣知事ハ同條ノ通知ニ從ヒ之ヲ郡區長及ヒ警察署長ニ達スヘシ

第三十條 郡區長ハ前條ノ達ニ從ヒ飛信若クハ豫定ノ脚夫ヲ以テ之ヲ戶長ニ達シ併シテ驅員兵員ノ召集旅費ヲ下付シ又第二十七條ノ郡區駐在官ヨリ送付スル豫備役驅員ノ召集令狀ハ豫定ノ脚夫ヲ以テ之ヲ各自ニ配達スヘシ但本條ノ旅費ハ召集發令ノ際直ニ郡區署ノ金庫國庫金取扱所或ハ同出張場又ハ現金支拂所ヨリ郡區役所ニ送付スルヲ以テ領收證ト引換現金ヲ受領スヘシ

第三十一條 戶長ハ前條ノ達ニ從ヒ召集ニ應スヘキ歸休兵并ニ豫備役兵員ノ召集令狀中ニ年月日ヲ記シ豫定ノ脚夫ヲ以テ各自ニ配達スヘシ

第三十二條 歸休兵并ニ豫備役驅員兵員既ニ召集令狀ヲ領收スルトキハ二十四時以內ニ戶長役場ニ到リ旅費ヲ受領シ而シテ一日

行程十里詰十里詰ハ最下限ヲ示ス以下ヲ以テ旅行シ又瀛車瀛船等ノ便アルモノハ里數ニ拘ハラズ之ニ依リ速ニ召集地ニ參着シ參着ノ上ハ鎮臺又ハ營所後備軍司令官若クハ分營所在地ノ府縣駐在官ニ届出ヘシ

第三十三條 鎮臺營所後備軍司令官并ニ分營所在地ノ府縣駐在官ハ第一充員召集ノ發令後速ニ本營各部及各隊ヨリ充足要員票第三式ヲ受領スヘシ

第三十四條 府縣駐在官ハ第一充員召集ノ發令後充員名簿ヲ携ヘ速ニ召集地ニ出張スヘシ

第三十五條 各隊長ハ第一充員召集ノ發令後隊中ニ生兵病者犯罪者等アルトキハ戰時名簿ヲ添ヘ之ヲ補充隊ニ移スヘシ

第三十六條 各隊長ハ第一充員召集ノ發令後直ニ兵器彈藥被服ヲ各中隊ニ配當シ且補充隊ニ交付スヘシ

第三十七條 豫備役驅員既ニ召集地ニ參着スルトキハ鎮臺營所後備軍司令官ハ各自ノ召集令狀ヲ引揚ケ其人名ヲ鎮臺後備軍司令官ハ鎮臺司令官ニ營所後備軍司令官ハ營所司令官ニ申告スヘシ但分營所在地ニ參着スルモノハ同地ノ府縣駐在官各自ノ召集令狀ヲ引揚ケ其人名ヲ聯隊長ニ申告スヘシ

第三十八條 歸休兵并ニ豫備役兵員既ニ召集地ニ參着スルトキハ鎮臺營所後備軍司令官ハ府縣駐在官ヲシテ各自ノ召集令狀ヲ引揚ケ手帖ヲ點檢シ歸休兵ハ直ニ本隊ニ歸ラシメ其他ノ兵員ハ充足要員票ニ照シ本營各部及ヒ各隊ニ交付シ殘餘ノ人員ハ補充隊ニ交付スヘシ但分營所在地ニ參着スルモノハ同地ノ府縣駐在官本條ノ事務ヲ處辦スヘシ

第三十九條 本營各部及ヒ各隊長ハ前條ノ兵員受領ノ後之ニ武器被服ヲ給テ私服ハ各自ノ姓名牌ヲ付シ之ヲ格納スヘシ但本營各